DAIHATSU

01999-B2288

TanTo Sloper スローパー

取扱説明書

ご使用の前によくお読みください

DAIHATSU

このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、タント スローパーの
専用機構について説明しています。
ご使用の前に必ずお読みください。
なお、基本的な内容は同梱の
タント取扱説明書を参照ください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

⚠警告	**警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。**
⚠注意	**注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。**
アドバイス	**お車のために守っていただきたい事項です。**
オプション/グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- ダイハツ サービス工場で取り付けられた装備の取り扱いについては、添付されている取扱説明書をご覧ください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のダイハツ サービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

目　　次

はじめに 2

必読! ドライバーのみなさまへ 5

車を運転する前に ---------- 6
車を運転するにあたって ---------- 8

タント スローパーの取り扱い 11

シート ---------- 12
シート ベルト ---------- 21
お子さま専用シート ---------- 26
車体各部の調整 ---------- 38
車いすでの乗降 ---------- 41

いざというときに 69

工具類 ---------- 70
いざというときの処置 ---------- 72

タント スローパーのお手入れ 77

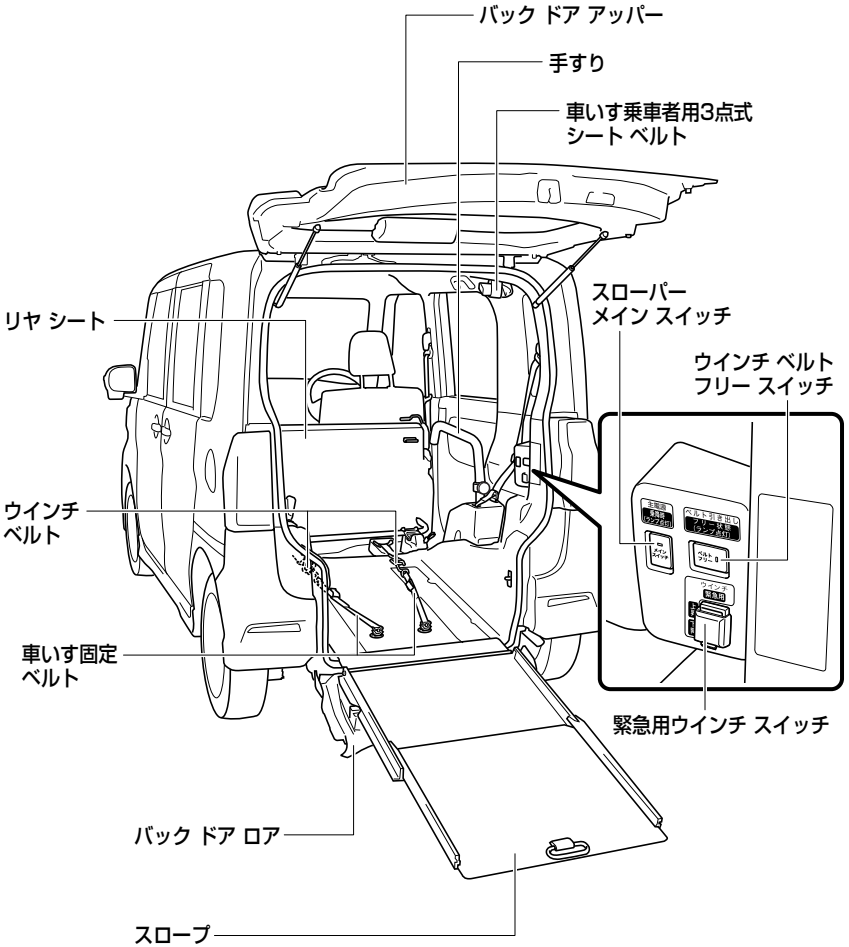
タント スローパーのお手入れ ------ 78

定期点検整備 81

さくいん 85

はじめに

タント スローパー専用部品



アドバイス

- 標準車のリヤ シートと形状、および仕様が異なります。
- タント スローパーにリヤ アンダー ミラーは装備されていません。

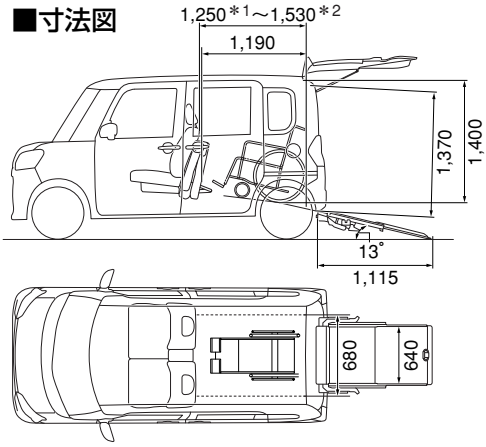
乗車できる車いす

タント スローパーは、乗車できる車いすの仕様が限定されます。下記の仕様以外は乗車できませんのでご注意ください。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

- 乗車できる車いすは 4 輪の車いすです。下記のような車いすは使用できません。
  - 3 輪の車いす
  - 固定ベルトのフックを正しくかけることができないフレーム形状の車いす
  - 車いすのアーム レスト下側にカバーなどがあり、シート ベルトを通すことができない車いす
- 下表の寸法に適合した車いすのみ乗車することができます。また、特殊な形状の車いすを乗車させるときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

■寸法図

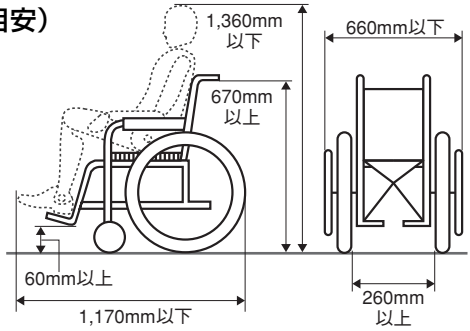


室内高（車いす固定位置）	1,400mm
車いす乗車スペース長（リヤ シート取り外し時）	1,190mm（1,250*1～1,530mm*2）
床面幅（車いす固定位置）	680mm
乗降時開口高さ	1,370mm
スロープ幅（内寸）	640mm
スロープ角度	13°
スロープ突出長	1,115mm
スロープ耐荷重	200kg

*1 前席スライド最後端
*2 前席スライド最前端

■乗車できる車いすの寸法（目安）

車いす重量と乗車の方の体重および車いすの幅を考慮してお選びください



MEMO

安全のためにぜひ守りましょう

必読! ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

	警告に値する項目です
	注意に値する項目です

車を運転する前に ---------- 6

車を運転するにあたって ---------- 8

車を運転する前に

通常ご使用されるときは

スロープ本体および車いすが確実に固定およびロックされていること、あるいは、リヤ シートがロックされていることを確認してください。
また、バック ドアが確実にロックされていることを確認してください。
各操作は、一つ一つ確認しながら確実に行ってください。指定通り確実に固定およびロックされていないと、走行中に外れ思わぬ事故につながったり、けがをしたりするおそれがあります。

車いすで乗降するときは

- 車いすでの乗降は、必ず介添えの方が安全に十分注意しながら行ってください。
  車いす乗車の方の自走は脱輪、転倒、手足の干渉等のおそれがあり、大変危険です。
- 車いすでの乗降は、車いすの車輪の位置、乗車の方の頭上、腕、足元などに注意しながらゆっくりと行ってください。
- 平坦地で車の通行が少ない、安全な場所を選んで乗降してください。
  坂道や交通量の多い道路、平坦でない道路や舗装されていない所、狭い所など、スロープの使用に適さない場所での乗降は大変危険ですので、絶対に行わないでください。
- 風の強い場所や風雨の強い日など、悪天候のときの使用もしないでください。
- 車いすで乗降するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れてください。

車いす用ヘッド レストについて

車いす乗車者には、車いす専用ヘッド レスト（別売）の装着をおすすめします。
詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

車いす乗車スペースのフロアは水洗いしないでください

車いす乗車スペースは、水洗いをしないでください。
また、飲み物をこぼしたり、雨水などがかからないよう注意してください。
フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、飲み物、雨水などがかかった場合は、すみやかにダイハツ サービス工場にご相談ください。

車を運転するにあたって

「急」のつく運転はしないでください

車いす乗車時は、特に急発進、急ブレーキ、急旋回など「急」のつく運転はしないでください。急な操作をすると、強い力が人や車いすおよび固定装置などに加わり、大変危険です。
また、車いすの座席位置が高いため、車いすに乗車の方は車酔いしやすくなります。
安全に十分注意し、スピードを控えめに運転してください。

スロープを格納してください

バック ドアを開けた状態やスロープを引き出した状態での走行は、車両の損傷だけでなく重大な事故につながるおそれがあるため、絶対に行わないでください。
必ずスロープは定位置に格納し、バック ドアを閉めて走行してください。

車いすを乗車しているときはウインチ ベルトと車いす固定ベルトを外さないでください

車いすは、ウインチ ベルトと車いす固定ベルトで固定します。
ベルトを外すと走行中に車いすが動き、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

車いす乗車者もシート ベルトはしっかりと着用してください

シート ベルトの着用は、必ず介添えの方が行い、正しく着用されていることを確認してください。正しく着用されていないと、衝突時など十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、車いすによっては自動車の衝突時に強度の確保が困難であったり、車いす乗車者の体形によっては、シート ベルトが適切な位置に密着せず、急ブレーキや衝突時に十分な効果を発揮しないおそれがありますので、くれぐれも安全運転を心がけてください。

（車いす乗車者用 3 点式シート ベルト
→ 21 ページ）

縁石や段差を乗り越えるときは十分に注意してください

縁石や、100mm以上の段差を乗り越えるときは、車両の下回りが損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

スマートアシストについて

車いす乗車時に低速域衝突回避支援ブレーキ機能が作動すると、強い力が人や車いすおよび固定装置などに加わる場合があります。
安全に十分注意し、スピードを控えめに運転してください。
詳しくは、標準車の取扱説明書（別冊）をご参照ください。

MEMO

タント スローパーの取り扱い

タント スローパー専用の取り扱い方法について説明しています。

■ シート

リヤ シート---------- 12

■ シート ベルト

車いす乗車者用３点式
シート ベルト ---------- 21

■ お子さま専用シート

チャイルド シート ---------- 26
チャイルド シートの選びかた ----- 28
チャイルド シートの固定のしかた --- 33

■ 車体各部の調整

手すり---------- 38

■ 車いすでの乗降

バック ドア ---------- 41
スロープ---------- 41
スイッチの名称 ---------- 45
電動ウインチ用
ワイヤレス リモコン ---------- 49
車いすでの乗降 ---------- 52
車いすの折りたたみ搭載---------- 66

シート

リヤ シート

⚠警告

- 走行中はリヤ シートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

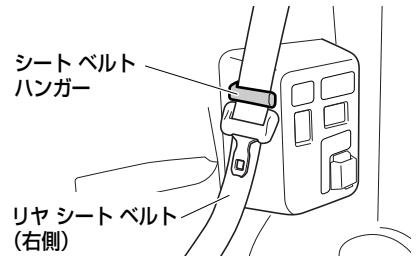
- リヤ シートに座るときやシートの脱着作業をするときなど、足元のウインチ装置に注意してください。つまずいたり踏んだりすると、思わぬけがや故障につながるおそれがあります。

- リヤ シートの状態にかかわらず、車いすで乗車される場合を除いて、荷室には人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はリヤ シートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時など前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

⚠注意

- リヤ シートを格納するとき、元に戻すとき、および脱着するときは、下記のことに注意してください。思わぬけがや故障につながるおそれがあります。
  - 手足を挟まないように注意してください。
  - 格納、脱着位置に人や物がないことを確認してください。
- リヤ シートを操作するときは、必ず助手席シート バックのショッピング フックを格納してください。
  格納していないとショッピング フックにリヤ シートが当たって破損するおそれがあります。

▼ リヤ シートに座るときは
リヤ シート ベルト（右側）をシート ベルト ハンガーから外して使用してください。



アドバイス

リヤ シート ベルト（右側）を使用しないときは

- シート ベルト ハンガーにかけてください。

ヘッド レストの調整

▼ 調整を行う前に

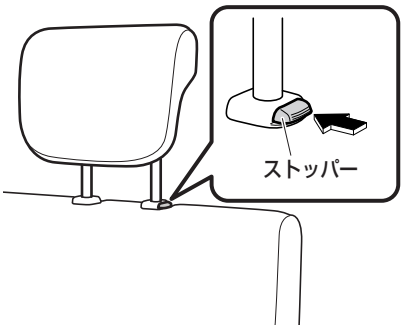
⚠警告

- リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼ 調整方法

使用するときは、ヘッド レストを引き上げて「カチッ」という音がする位置で固定します。

- 下げるときは、ストッパーを押しながらヘッド レストを押し下げます。
- 取り外すときは、ストッパーを押しながらヘッド レストを引き抜きます。

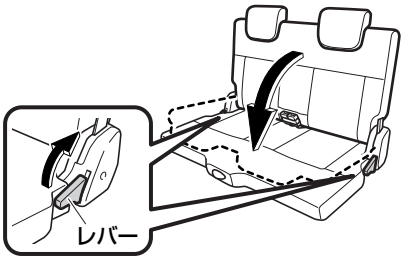


背もたれを倒すとき

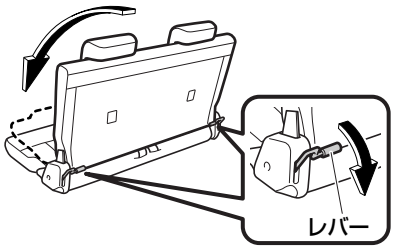
▼ 操作方法

左右 4 カ所いずれかのレバーを矢印の方向に引いて、背もたれを前に倒します。

前側



後側



⚠注意

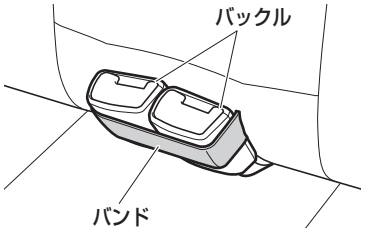
- 背もたれが急に倒れるおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。
- 背もたれを元に戻したときは、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定していないと走行中に背もたれが動き、思わぬけがをするおそれがあります。

シート

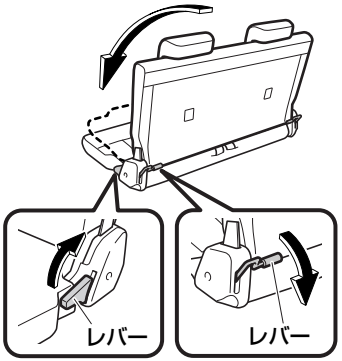
シートの格納

▼ 操作方法

1. フロント シートの背もたれを直立状態にして、前方いっぱいまでスライドさせます。
2. リヤ シートのヘッド レストを一番下まで下げます。
3. 背もたれを倒す前に、リヤ シート ベルトのバックルが、バンドで保持されていることを確認します。



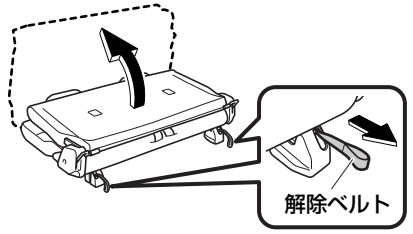
4. 左右 4 カ所いずれかのレバーを矢印の方向に引いて、背もたれを前に倒します。



⚠注意

- **背もたれが急に倒れるおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。**

5. 左右 2 カ所の解除ベルトを矢印の方向に引いて、ロックを解除します。
6. リヤ シートをゆっくりと持ち上げ、車両前方に格納させます。

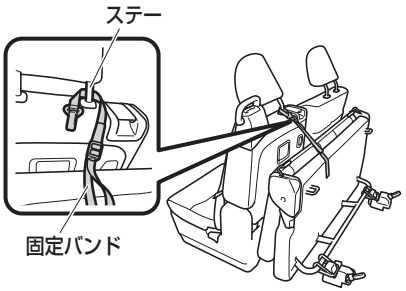


7. リヤ シートに当たらないように、フロント シートをゆっくりと後方にスライドさせます。

⚠注意

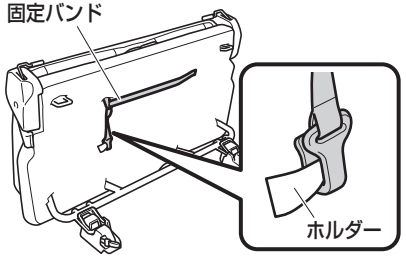
- **フロント シートを勢いよく戻すとリヤ シートに当たって傷ついたり、リヤ シートが後ろに倒れるおそれがあります。**

8. リヤ シートが倒れないように手で支えながら、固定バンドをフロント シートのヘッド レスト ステーにかけます。

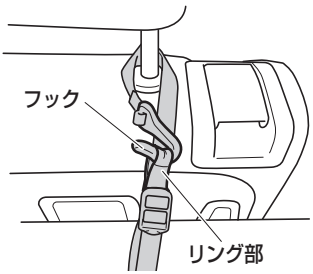


アドバイス

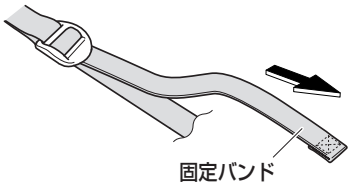
- 固定バンドのフックは、かみ込み防止のため、下図のように収納されています。



9. 固定バンドのリング部にフックを引っかけます。

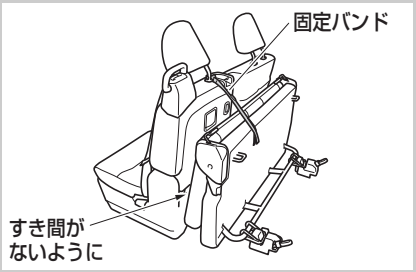


10. 固定バンドを引っ張り、リヤ シートを確実に固定します。



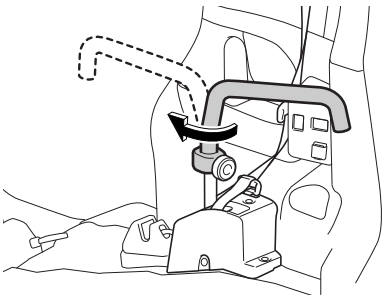
⚠警告

- 固定バンドは、リヤ シートと助手席背もたれの間にすき間ができないように助手席背もたれの角度と固定バンドの長さを調整してください。固定バンドがゆるんでいると、リヤ シートが後ろに倒れて車いす乗車の方に当たるなどして、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けるおそれがあります。



11. 手すり（左右）を車両前向きに変更します。

（手すり→ 38 ページ）

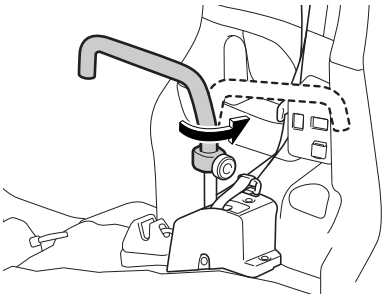


シート

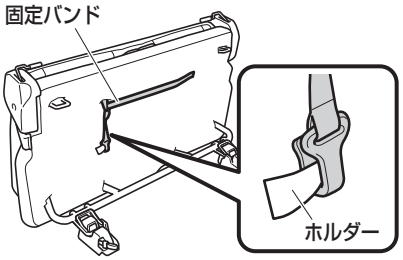
▼ 元に戻すとき

1. 手すり（左右）を車両後ろ向きに変更します。

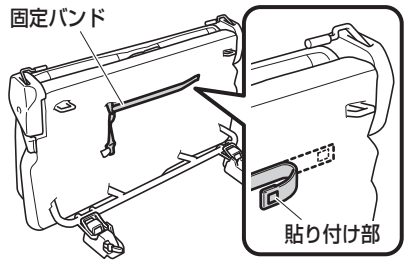
（手すり→ 38 ページ）



2. リヤ シートが倒れないように手で支えながら、フロント シートのヘッド レスト ステーに取り付けた固定バンドのフックを外します。
3. リヤ シート背面のホルダーにかけ、外れないように固定バンドの長さを調整して固定します。



4. 固定バンドのかみ込み防止のため、バンドの先がたるまないように、シート側に貼り付けて固定します。

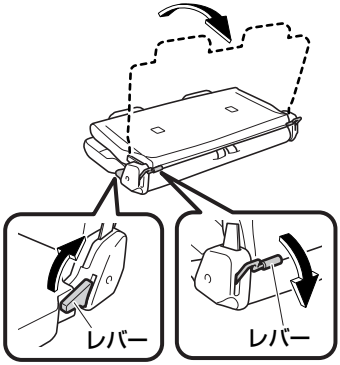


5. フロント シートを前方にスライドさせます。
6. リヤ シートをゆっくり後ろに倒したあと、真上から押し付けてロックします。

⚠注意

- **リヤ シートを後ろに倒すときは、リヤ シートのヘッド レストが一番下まで下がっている（ヘッド レストと背もたれの間にすき間がない）ことを確認してください。下がっていないとフロント シートにヘッド レストが当たるなどして、ヘッド レストが損傷したり変形するおそれがあります。**
- **リヤ シートをロックしたあとは、シートを軽く持ち上げて、シートが確実にロックされていることを確認してください。**

7. 左右 4 カ所いずれかのレバーを矢印の方向に引いて、背もたれを起こします。



⚠注意

- 背もたれを起こしたあとは、リヤ シートを前後に軽くゆすり、背もたれが確実に固定されていることを確認してください。

8. フロント シートを後方にスライドさせます。

リヤ シートの脱着

リヤ シートを使用しないときは、リヤシートを取り外し、車外に運び出すことができます。

⚠注意

- リヤ シートの脱着は、必ず二人で行ってください。

⚠注意

- リヤ シートを脱着するときは、足元のウインチ装置に注意してください。つまずいたり踏んだりすると、思わぬけがや故障の原因となります。

- リヤ シートは約 26kgあります。リヤシートの脱着は慎重に行ってください。外したシートを落としたり、シートにつまずいたりして、けがをするおそれがあります。
- リヤ シートを車外に運び出すときや車内に戻すときは、頭上や足元に注意してください。また、リヤ シート端部で車体を傷付けないように注意してください。

アドバイス

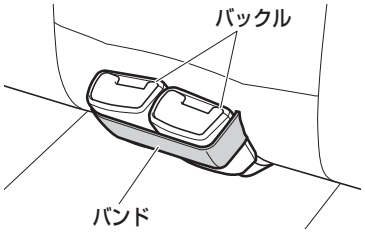
- 車検（継続検査）を受けるときは、リヤ シートを取り付けてください。リヤ シートを取り外していると、車検証の記載内容と異なると判断され、車検に通らない場合があります。

シート

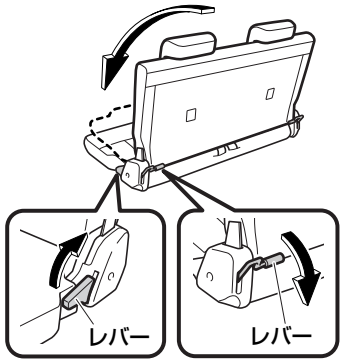
■ 取り外すとき

▼ 操作方法

1. フロント シートの背もたれを直立状態にして、前方いっぱいまでスライドさせます。
2. リヤ シートのヘッド レストを一番下まで下げます。
3. 背もたれを倒す前に、リヤ シートベルトのバックルが、バンドで保持されていることを確認します。



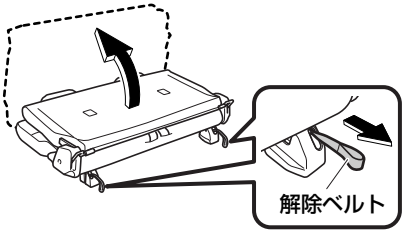
4. 左右 4 カ所いずれかのレバーを矢印の方向に引いて、背もたれを前に倒します。



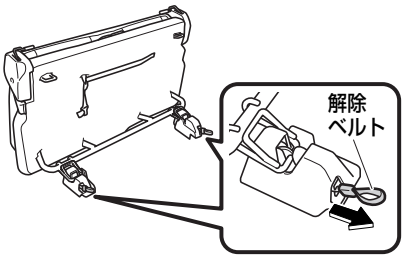
⚠注意

- **背もたれが急に倒れるおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。**

5. 左右 2 カ所の解除ベルトを矢印の方向に引いて、ロックを解除します。
6. リヤ シートをゆっくりと持ち上げ、車両前方に格納させます。



7. リヤ シートが倒れないように手で支えながら、左右 2 カ所の解除ベルトを手前に引いて、シートのロックを解除します。



8. リヤ シートを手で支えながら、バンドを持って取り外します。
   - 少し後ろへ傾けた状態で取り外します。

9. 外したリヤ シートを慎重に車外へ運び出します。

⚠注意

- 取り外したリヤ シートを車内に放置しないでください。リヤ シートが固定されていないため危険です。
- 取り外したリヤ シートに座ったり、上に物を置かないでください。

アドバイス

- 取り外したリヤ シートは雨や霧をさけ、湿気の少ない場所で保管してください。

■ 取り付けるとき

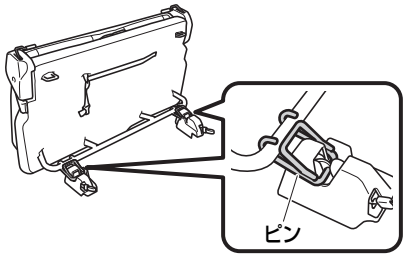
▼ 操作を行う前に

⚠注意

- リヤ シートを取り付けるときは、シート取り付け部周辺に手や物などを置かないでください。シートを取り付けたときに手や物を挟むおそれがあります。
- 固定後は、リヤ シート後部を持ち上げ、確実に固定されていることを確認してください。

▼ 操作方法

1. フロント シートの背もたれを直立状態にして、前方いっぱいまでスライドさせます。
2. リヤ シートのバンドを持って、慎重に車内へ運びます。
3. リヤ シートの左右 2 カ所のピンをフロア側のロック部に差し込みます。

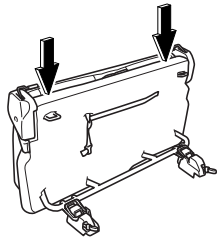


⚠注意

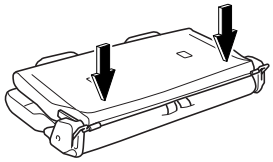
- リヤ シートのピンとフロア側のロック部との間で指を挟まないように注意してください。

シート

4. リヤ シートを立てた状態で、シートが倒れないように手で支えながら、シートを押してロックします。



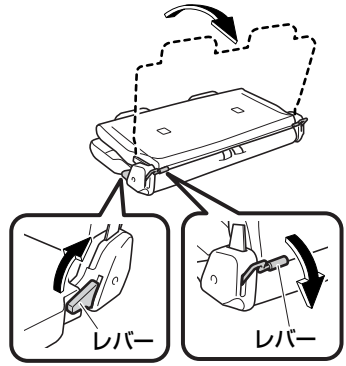
5. フロント シートを前方にスライドさせます。
6. リヤ シートをゆっくり後ろに倒したあと、真上から押し付けてロックします。



⚠注意

- リヤ シートを後ろに倒すときは、リヤ シートのヘッド レストが一番下まで下がっている（ヘッド レストと背もたれの間にすき間がない）ことを確認してください。下がっていないとフロント シートにヘッド レストが当たるなどして、ヘッド レストが損傷したり変形するおそれがあります。
- リヤ シートをロックしたあとは、シートを軽く持ち上げて、シートが確実にロックされていることを確認してください。

7. 左右 4 カ所いずれかのレバーを矢印の方向に引いて、背もたれを起こします。



⚠注意

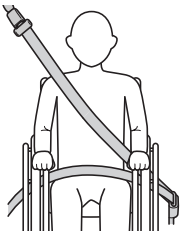
- 背もたれを起こしたあとは、リヤ シートを前後に軽くゆすり、背もたれが確実に固定されていることを確認してください。

8. フロント シートを後方にスライドさせます。

シート ベルト

車いす乗車者用 3点式シート ベルト

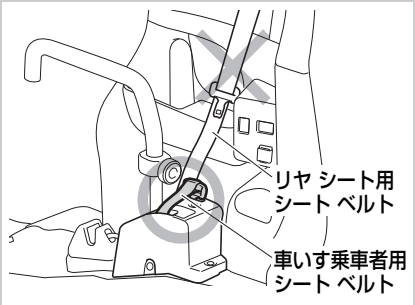
車いす乗車の方が乗車されるときは、車いす乗車者用3点式シート ベルトを必ず着用してください。



▼ 操作を行う前に

⚠警告

- シート ベルトの着用は、必ず介添えの方が行い、正しく着用されていることを確認してください。正しく着用されていないと、衝突時など十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いす乗車者にリヤ シートのシート ベルトを着用しないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。必ず車いす乗車者用 3 点式シート ベルトを着用してください。



アドバイス

- シート ベルトがロックし引き出せない場合は、シート ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度シート ベルトを強く引いてからシート ベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シート ベルトの着用

車いす乗車者用3点式シート ベルトは必ず介添えの方が操作を行い、正しく着用してください。

▼ 着用するとき

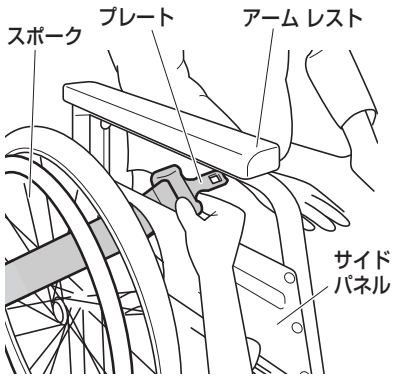
■ 腰部ベルト

1. 腰部ベルトのプレートを車両右側のシート ベルト ホルダーから取り外します。

2. 腰部ベルトを引き出します。

シート ベルト

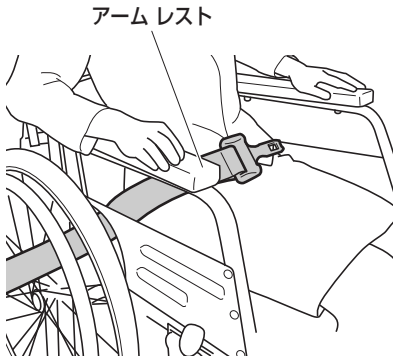
3. 車いすの後輪に腰部ベルトの荷重がかからないように、スポークの間とアーム レストの下側からプレートを通します。



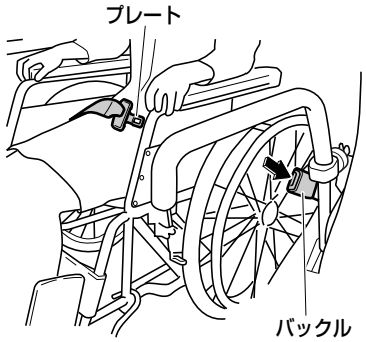
アドバイス

- 車いすにサイド パネルがある場合は、サイド パネルの下側または開口部からプレートを通してください。

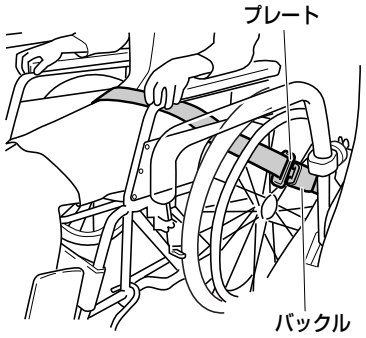
4. 車いすのアーム レスト下から、乗車の方の腰骨にかかるように、腰部ベルトを通します。



5. 反対側も右側同様にプレートを通します。



6. 腰部ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

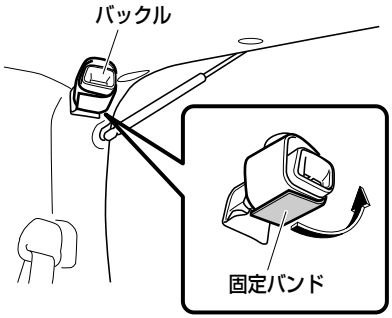


アドバイス

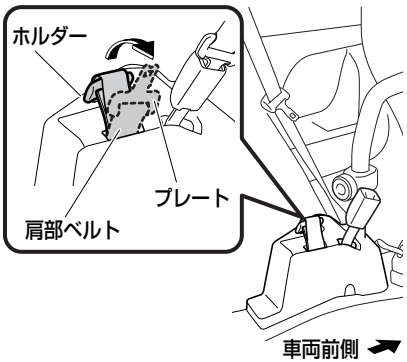
- 車いすの形状により、腰部ベルトの通し方は若干変わります。
- 固定後は、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにしてください。
- ご使用の車いすに専用の腰部ベルトがある場合は、併用されることをおすすめします。

■ 肩部ベルト

1. 固定バンドを外して車両右上に固定されているバックルを取り出します。

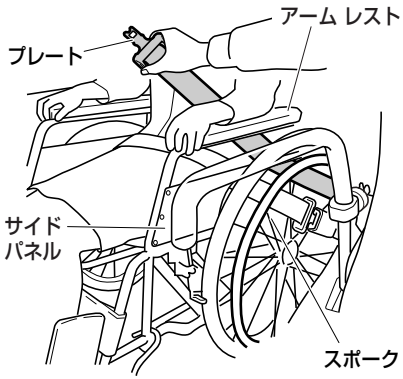


2. 肩部ベルトのプレートを車両左側のシート ベルト ホルダーから取り外します。



3. 肩部ベルトを引き出します。

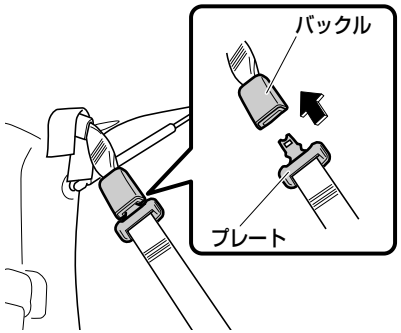
4. 車いすの後輪に肩部ベルトの荷重がかからないように、スポークの間とアーム レストの下側からプレートを通します。



アドバイス

- **車いすにサイド パネルがある場合は、サイド パネルの下側または開口部からプレートを通してください。**

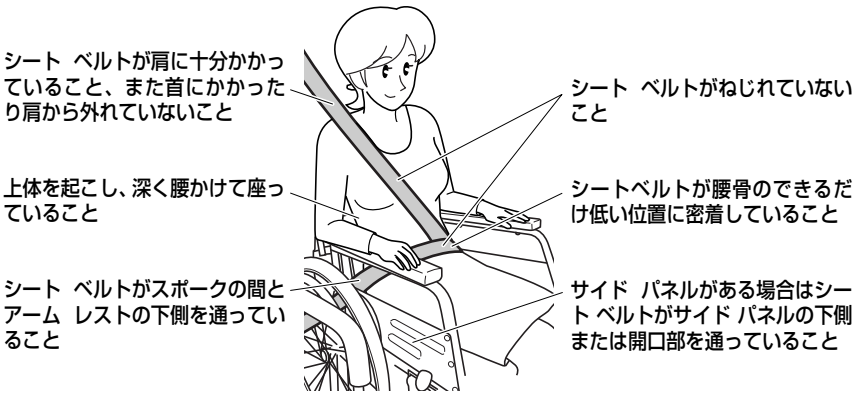
5. 肩部ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



シート ベルト

■ 車いす乗車者用 3 点式シート ベルトを着用したら

下記のように、シート ベルトが正しく着用されていることを確認します。

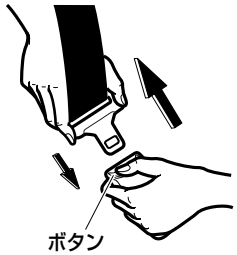


▼外すとき

⚠注意

- **プレートをバックルから外すときは、必ずプレートを手で持ちながらバックルのボタンを押してください。**
  プレートを持たずにボタンを押すと、シート ベルトを巻き取る際に、プレートが車いす乗車の方の体に当たるなどして思わぬけがをするおそれがあります。

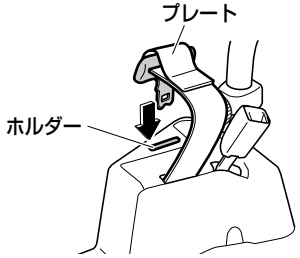
1. 肩部ベルトを外します。
   - プレートを手でしっかりと持ちながら、バックルのボタンを押します。



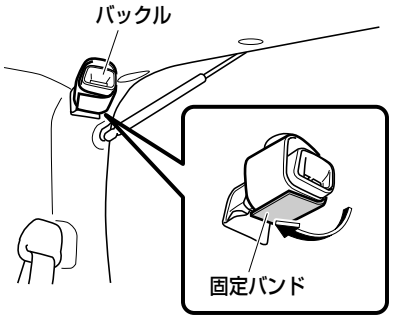
   - ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、ベルトやプレートに手を添えてゆっくり戻します。

2. 腰部ベルトを外します。
   - 肩部ベルトと同様にします。

3. 肩部ベルトと腰部ベルトのプレートをホルダーに差し込みます。



4. 肩部ベルトのバックルを固定バンドで固定します。



⚠注意

- **肩部ベルトのバックルを格納した後は、必ずバンドで固定されていることを確認してください。正しく固定されていないと走行中にバックルが外れ、リヤ シート乗員に当たるなどしてけがをするおそれがあります。**

お子さま専用シート

チャイルド シート

シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルド シートをご使用ください。
車両に固定するチャイルド シートには、シート ベルトで固定するタイプとISO[*1] FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーで固定するタイプがあります。
（チャイルド シートの固定のしかた → 33 ページ）
チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。

アドバイス

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルド シートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルド シートが不必要なお子さまは、リヤ シートに乗せてシート ベルトを着用させてください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

（チャイルド シートの種類→ 27 ページ）

チャイルド シートの質量グループについて

ECE R44[*2] の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0^+	13kgまで
グループ I	9～18kg
グループ II	15～25kg
グループ III	22～36kg

[*1] International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

[*2] チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。

チャイルド シートの種類

■ ベビー シート

質量グループ 0、0+に相当します。

■ チャイルド シート

質量グループ 0+、Ⅰに相当します。

■ ジュニア シート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

（チャイルド シートの質量グループについて→ 26 ページ）

お子さま専用シート

チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、チャイルド シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シート ベルトで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロント シート	リヤ シート
	助手席	左右席
0（10kgまで）	×	U
0^+（13kgまで）	×	U
I（9～18kg）	UF*	U*
II（15～25kg）	UF*	U*
III（22～36kg）	UF*	U*

●記号の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートが取り付け可能です。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルド シートが取り付け可能です。

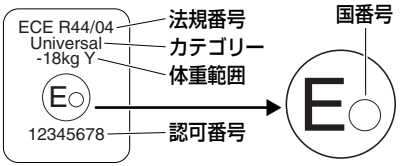
× ：チャイルド シートを取り付けることはできません。

＊ ヘッド レストとチャイルド シートが干渉して、チャイルド シートが正しく取り付けられない場合、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。

アドバイス

- チャイルド シートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- ECE R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。
  - カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルド シートの認可であることを表します。



お子さま専用シート

ISO* FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤ シート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kgまで）	E	ISO/R1	×
0+（13kgまで）	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9～18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF*1
	B1	ISO/F2X	IUF*1
	A	ISO/F3	IUF*1
Ⅱ（15～25kg）		－	×
Ⅲ（22～36kg）		－	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

× ：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

*1 ヘッド レストとチャイルド シートが干渉して、チャイルド シートが正しく取り付けられない場合、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。

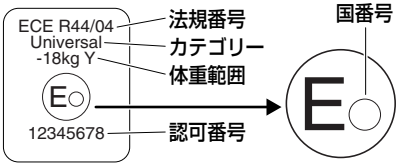
* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

アドバイス

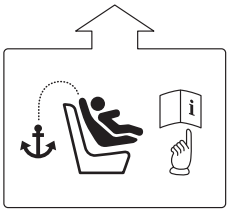
- この車のISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーは、2006年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合しています。
  これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。（表示されているマークや文字は、製品により異なります。）
  - ISO FIX対応チャイルド シートであることを示す表示です。
    文字はサイズ等級を表します。

A——サイズ等級

  - ECE R44 の認可マークです。
    汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



  - ISO FIX対応トップ テザー アンカーの位置を示すマークです。
    トップ テザー アンカーの位置により、意匠は異なります。



お子さま専用シート

アドバイス

- ダイハツ純正の汎用（ユニバーサル）、および準汎用カテゴリーのチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはダイハツ サービス工場にご相談ください。
- チャイルド シートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	仕様
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルド シート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルド シート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルド シート （B-ISO/F2と別形状のもの）
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルド シート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルド シート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルド シート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルド シート（キャリコット）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルド シート（キャリコット）

- キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビー シートのことです。詳しくはチャイルド シートの製造業者、または販売業者にご相談ください。

チャイルド シートの固定のしかた

⚠警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルド シートを使用してください。
  また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジュニア シートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

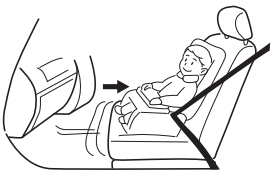
- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。
- チャイルド シートを取り付けたときは、チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルド シートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートを固定しておいてください。また、ラゲージ ルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お子さま専用シート

⚠警告

- 助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビー シート、チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。



⚠警告

SRSサイド エアバッグ装着車

- チャイルド シートに座らせている場合でも、ドアやシート付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- 標準装備のシート ベルトは大人用です。肩ベルトに首がかかるような小さなお子さまにはシート ベルトの着用はさけ、チャイルド シートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シート ベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

アドバイス

チャイルド シートをリヤ シートに取り付けたときは

- 運転席とチャイルド シートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤ シートの助手席側に取り付けてください。
  正しい運転姿勢については、標準車の取扱説明書（別冊）をご参照ください。

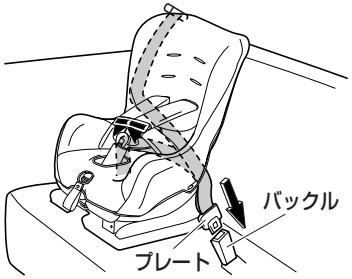
チャイルド シートを使用しないときは

- チャイルド シートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シート ベルトによる固定*

▼ 取り付けかた

1. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。
   - ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。
2. シート ベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。

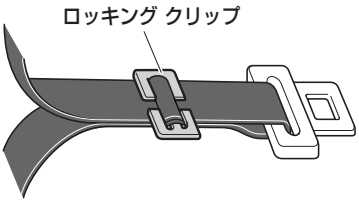


3. バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- **プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。**

4. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキング クリップを使用して固定します。



アドバイス

- **ロッキング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。**
  また、ロッキング クリップの購入については、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

5. チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

⚠注意

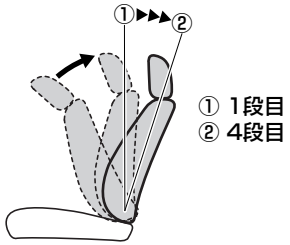
- **チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。**

* 固定のしかたは代表例です。
また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。

アドバイス

助手席にチャイルド シートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときは、助手席シートを以下のように調整し、必ず前向きにチャイルド シートを取り付けてください。
  - シートを後方いっぱいまでスライドさせる
  - 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置に起こしてから、②4 段目の固定位置まで調整する



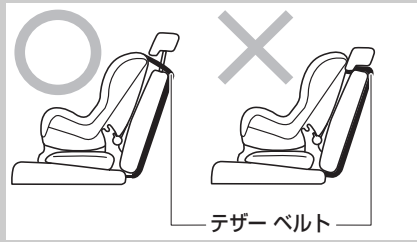
  - ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく

ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーによる固定

▼ チャイルド シートを取り付ける前に

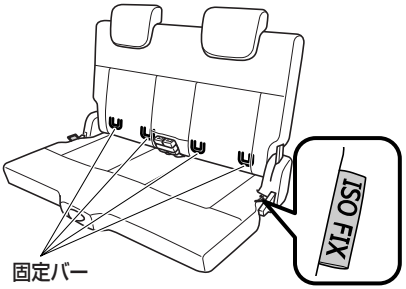
⚠警告

- チャイルド シートを取り付けるときは、ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカー周辺に異物がないこと、シート ベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシート ベルトなどをかみ込むとチャイルド シートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートのテザー ベルトがヘッド レストに干渉しないように、ヘッド レストを「カチッ」と音がする位置まで引き上げてからトップ テザー アンカーに固定してください。
  それでもヘッド レストに干渉する場合は、ヘッド レストを取り外して安全な場所に固定しておいてください。
  ヘッド レストを下げたままだと、テザー ベルトがヘッド レストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルド シートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

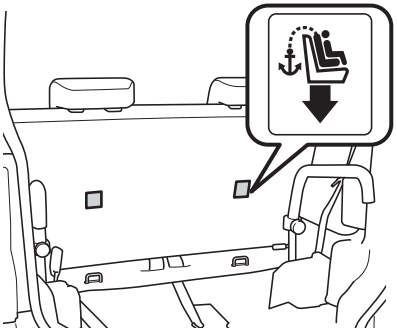


▼ 取り付けかた

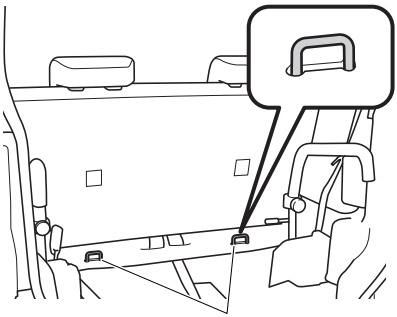
1. ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーの位置を確認します。
   - 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。



   - トップ テザー アンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。



   - 背もたれの下にあるトップ テザー アンカーの位置を確認します。

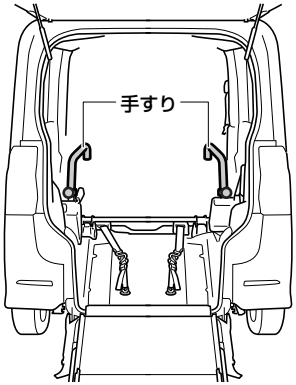


2. 適合するチャイルド シートの取り付け金具をISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーに連結して取り付けます。（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください。）
   - ヘッド レストにチャイルド シートやテザー ベルトが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。
3. 取り付けたチャイルド シートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認します。

車体各部の調整

手すり

車いす乗車スペースの両側に設置されています。
車両走行中、車いす乗車の方のゆれに対するアシスト バーとして使用してください。



⚠注意

- 故意に手すりを引っ張るなど過大な力をかけないでください。車両が損傷するおそれがあります。

向きの変更

手すりは、リヤ シートの状態により向きを変更することができます。

アドバイス

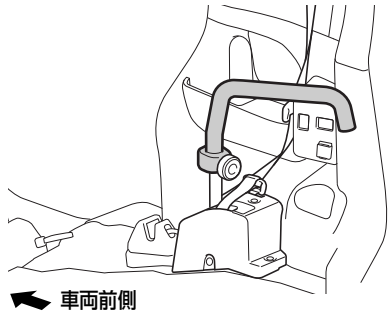
- 向きを変更するときは、必ず左右とも行ってください。

▼ リヤ シートを格納した場合の向き

アドバイス

- 先にリヤ シートを格納してから手すりの向きを変更してください。
（リヤ シート→ 12 ページ）

▼ リヤ シートを使用する場合の向き

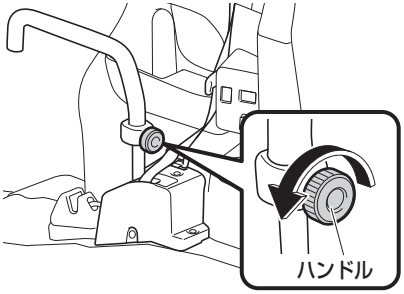


アドバイス

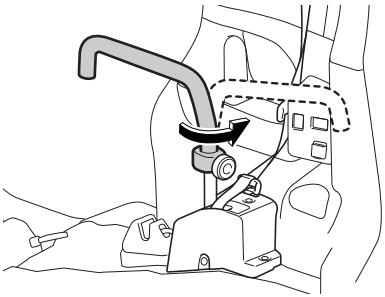
- 先に手すりの向きを変更してからリヤ シートを設置してください。
（リヤ シート→ 12 ページ）

▼ 操作方法

1. ハンドルを矢印の方向に回してゆるめます。



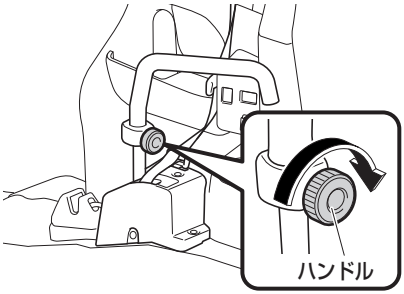
2. 手すりを上方に少し持ち上げ、回転させます。



アドバイス

- 手すりが少し下がり、固定される位置まで回転させてください。

3. ハンドルを矢印の方向に回して手すりを固定します。



⚠注意

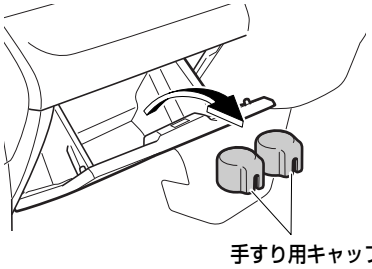
- 手すりは確実に固定してください。走行中や、車いす乗車の方が使用した際に手すりが動き、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 手すりは、必ず固定位置でハンドルを締めて使用してください。途中の位置でハンドルを締めて使用すると、確実に固定できないため思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

手すりの取り外し

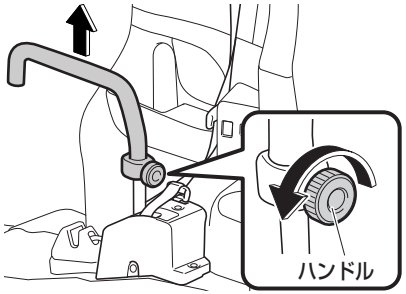
手すりは、車いす乗車スペースを広く使用したいときに取り外すことができます。

▼ 取り外しかた

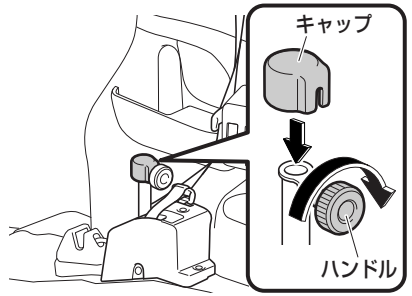
1. グローブ ボックスから手すり用キャップを取り出します。



2. ハンドルを矢印の方向に回してゆるめ、手すりを上方に引き抜きます。



3. キャップを取り付け、ハンドルを矢印の方向に回して固定します。



⚠注意

- **取り外した手すりを車内に放置しないでください。車いす乗降の際に踏んだり、車いす乗車者に当るなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。**

▼ 取り付けかた

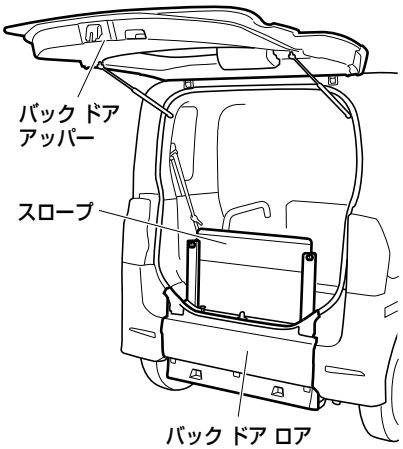
逆の手順で行います。

車いすでの乗降

バック ドア

バック ドア機構

バック ドア アッパーと分割リヤ バンパーを兼ねたバック ドア ロアの上下開きドアです。
バック ドア ロアはスロープと連結されており、スロープと一緒に作動します。
（スロープ→ 41 ページ）



⚠注意

- バック ドア アッパーを閉める前に、スロープとバック ドア ロアが正しく収納され、ロックがかかっていることを確認してください。
  ロックされていない状態では、ドアの損傷や半ドア状態となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- バック ドア ロアはスロープと連結されているため、単独で開けることはできません。

スロープ

車いすを乗降するときに使用します。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- スロープを引き出したままの走行や、バック ドアを開けたままでの走行は、スロープを損傷したり、重大な事故につながるおそれがあるため、絶対に行わないでください。

⚠注意

- 取手およびスロープのロック解除用ノブ付近以外のスロープ各部は触らないようにしてください。所定位置以外では手足を挟むおそれがあります。
- 積雪、降雪、雨天時は、スロープ表面が滑るおそれがありますので、ご注意ください。
- 平坦地で車の通行が少ない、安全な場所を選んで乗降してください。
  坂道や交通量の多い道路、平坦でない道路や舗装されていない所、狭い所などスロープの使用に適さない場所での乗降は大変危険ですので、絶対に行わないでください。
- スロープの耐荷重は 200kgです。
  車いす（乗員含む）と介添えの方を合わせた総重量がスロープの耐荷重を超えないように注意してください。
  また、車いす以外の耐荷重を超える重い物（荷物や台車など）をスロープに乗せないでください。スロープが破損するおそれがあります。
- スロープを取り外したり、改造したりしないでください。

車いすでの乗降

アドバイス

スロープを使用したときは

- スロープの表面や接地面、スライド部に泥や小石、砂などが付着していないことを確認してください。異物がスライド部分につまると、スロープが滑らかに引き出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

（タント スローパーのお手入れ → 78 ページ ）

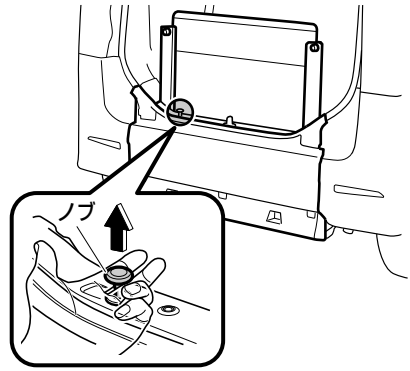
スロープの設置方法

⚠注意

- スロープを操作するときは、必ずスロープの取手を持ち、ゆっくりと操作してください。スロープから手を離して落下させるとスロープが破損するおそれがあります。

▼ 操作方法

1. バック ドア アッパーを全開にします。
2. スロープを手で支えながら、バック ドア ロアのノブを図のように持ち、まっすぐ上に引いてロックを解除します。



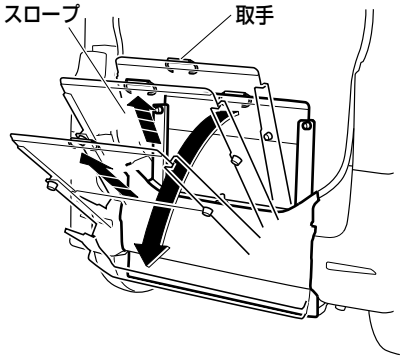
⚠注意

- ノブを斜めに引き上げたり、回したりしないでください。故障の原因となります。
- バック ドア ロアのノブを引き上げるときは、必ずスロープの取手を持ち、支えながら操作してください。スロープが突然倒れ、けがをしたり車両が損傷したりするおそれがあります。

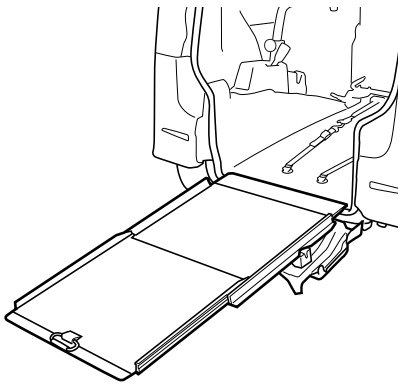
アドバイス

- バック ドア ロアはスロープと連結されているため、単独で開けることはできません。

3. スロープの取手を持ち、スロープを引き出しながら、ゆっくりと降ろします。



4. スロープをいっぱいまで引き出した状態で、引き出したスロープの先端を接地させ、スロープを設置します。



⚠注意

- スロープは、いっぱいまで引き出した状態で使用してください。
  いっぱいまで引き出さない状態で使用すると、スロープが不安定になり思わぬけがをしたり、スロープやリヤ バンパーが破損したりするおそれがあります。
- スロープをいっぱいまで引き出さずに接地させてから引き出すと、スロープが破損するおそれがあります。

車いすでの乗降

スロープの格納方法

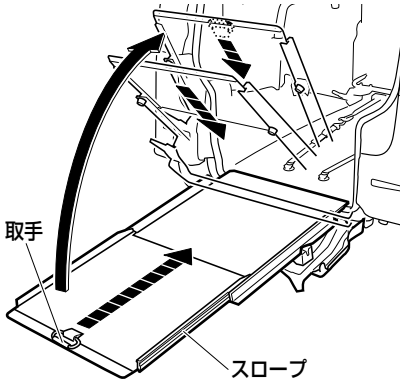
▼ 操作を行う前に

⚠注意

- バック ドア ロアを閉めるとき、指や手を挟まないよう注意してください。
- スロープを操作するときは、必ずスロープの取手を持ち、ゆっくりと操作してください。スロープから手を離して落下させたり、勢いよく格納するとスロープが破損するおそれがあります。

▼ 操作方法

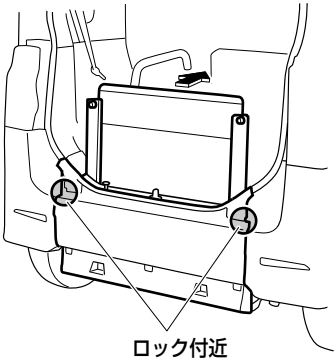
1. スロープの取手を持ち、スロープをゆっくりと持ち上げながら、引き出したスロープをスライドさせて収納します。



⚠注意

- 引き出したスロープを収納するときは、必ずスロープを持ち上げた状態で収納してください。スロープを接地させたまま収納すると、スロープが破損するおそれがあります。

2. 引き出したスロープが完全に収納されている状態で、バック ドア ロアの左右のロック付近が、「カチッ」と音がするまで押し込み、スロープをロックします。



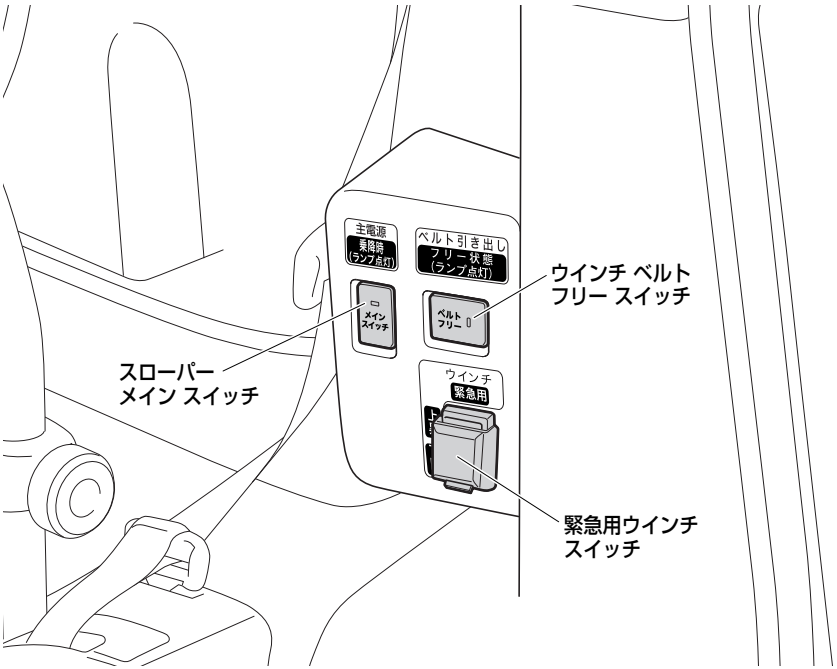
⚠注意

- スロープをロックしたあとは前後にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。スロープが完全に固定されていないと、バック ドア アッパーと接触し、破損するおそれがあります。

3. バック ドア アッパーを閉めます。

スイッチの名称

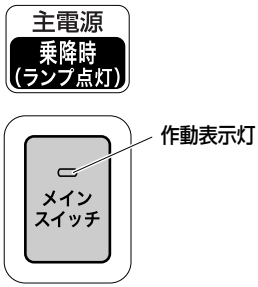
タント スローパー専用のスイッチです。
ラゲージ ルーム右側にあります。スイッチは介添えの方が操作してください。



車いすでの乗降

スローパー メイン スイッチ

車いすの乗降操作をするときに“ON”（作動表示灯が点灯）にします。



▼ 作動条件

スローパー メイン スイッチは下記の条件を満たしたとき“ON”になります。

- シフト レバーがPレンジのとき
- バック ドアが開いているとき

▼ 操作方法

- スイッチを押すと“ON”になり、作動表示灯が点灯します。
- 乗降操作を完了した後、スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯が消灯します。

⚠警告

- 車いす乗降操作時以外は、スローパー メイン スイッチを必ず“OFF”にしてください。“ON”のままだと、誤ってウインチ ベルト フリー スイッチが押された場合に、不意に車いすの固定が解除されるおそれがあり危険です。

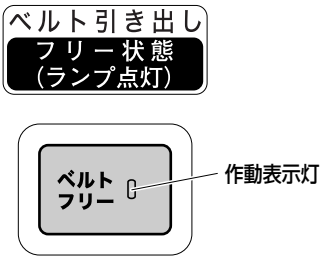
アドバイス

- スローパー メイン スイッチを“ON”にして、ウインチ操作をせず約 5 分経過すると、自動的に“OFF”になります。
- スローパー メイン スイッチが“ON”のとき、下記の操作をするとブザーが吹鳴します。
  - シフト レバーをPレンジ以外にして、スローパー メイン スイッチが自動的に“OFF”になったとき
  - ウインチ ベルトのロックが解除されているときにスローパー メイン スイッチを“OFF”にしたとき
  - ウインチ操作中にスローパー メイン スイッチを“OFF”にしたとき

ウインチ ベルト フリー スイッチ

ウインチ ベルトのロックを解除するときに“ON”（作動表示灯が点灯）にします。

- “ON”にすると、ウインチ ベルトのロックを解除する待機状態になります。



▼ 作動条件

- スローパー メイン スイッチが“ON”のとき
  （スローパー メイン スイッチ → 46 ページ）

▼ 操作方法

- 作動表示灯が点灯するまでスイッチを押すと“ON”になります。
- もう一度押すと“OFF”になり、作動表示灯が消灯します。

▼ ロック解除方法

- スイッチが“ON”のときに、ワイヤレス リモコンの電源を入れ、上昇（または下降）ボタンを押すと、ウインチ ベルトのロックが解除されてブザーが鳴ります。

⚠警告

- 電動ウインチで車いす乗降中にウインチ ベルト フリー スイッチを押したり、ウインチ ベルトのロックが解除されている状態で、手足での押し上げ乗降をしたりしないでください。
  車いすが車内またはスロープの途中で急に下がって転倒したり、介添えの方が支えきれず思わぬ事故につながったり、重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。

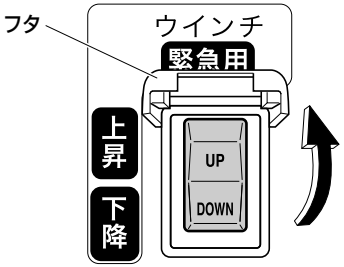
アドバイス

- ウインチ ベルト フリー スイッチを“ON”にして、ウインチ ベルトのロックを解除する待機状態のままで約 20 秒経過すると作動表示灯が消灯し、“OFF”になります。
- ウインチ ベルトのロックが解除されている状態で約 2 分経過すると、ブザーが止まりウインチ ベルトがロックされます。

車いすでの乗降

緊急用ウインチ スイッチ

電池の消耗など、ワイヤレス リモコンでウインチ操作ができなくなったときの緊急時に使用します。



▼ 作動条件

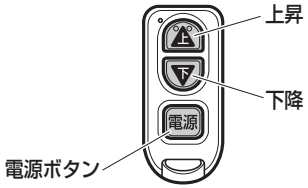
- スローパー メイン スイッチが“ON”のとき
  （スローパー メイン スイッチ → 46 ページ）

▼ 操作方法

（緊急用ウインチ スイッチによる車いすの乗降→ 74 ページ）

電動ウインチ用ワイヤレス リモコン

ワイヤレス リモコンで電動ウインチを操作します。



▼ 作動条件

電動ウインチは下記の条件を満たしているときに作動します。

- シフト レバーがⓅレンジのとき
- バック ドアが開いているとき
- スローパー メイン スイッチが“ON”のとき

ただし、バック ドアが開いた直後から約10 秒後に作動させることができます。

⚠注意

- 故障の原因となりますので、断続的に上昇、または下降ボタンを押さないでください。
  断続的にボタンを押しても電動ウインチは作動しません。ボタンは、押し続けてください。
- ボタンの切り替え操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。瞬時に切り替え操作を行うと、電動ウインチが故障するおそれがあります。
- 車いすを所定の位置で固定後、スイッチを押し続けないでください。電動ウインチが故障したり、車いす乗車の方が車両に当たるなどして思わぬけがをするおそれがあります。

⚠注意

ワイヤレス リモコンの取り扱いについて

- ワイヤレス リモコンは電子部品です。故障の原因となりますので、下記の事項を必ず守ってください。
  - ワイヤレス リモコンをダッシュ ボードの上など、直射日光の当たる場所および、高温になるところに置かないでください。
  - 分解しないでください。
  - 落としたり、強い衝撃をあたえないでください。
  - 水にぬらさないでください。水たまりなど、水中に落下させると故障の原因となります。
- 清掃するときは、シンナー、ベンジン、ガソリンなどの溶剤を使用しないでください。表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水または、ぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってから、ふいてください。

アドバイス

- 複数のボタンを同時に押すと、電動ウインチは作動しません。

車いすでの乗降

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 植え込み型心臓ペース メーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響をあたえるおそれがあります。

アドバイス

- ワイヤレス リモコンは、周囲の状況により作動範囲が変わることがあります。
- 周囲の電波状況によりワイヤレス リモコンの上昇、または下降ボタンを押し続けたままでも、電動ウインチが作動しない場合があります。下記のようになった場合、もう一度ワイヤレス リモコンのボタンを押し直してください。
  - 乗降操作をするときに電動ウインチが作動しない
  - 車いすの乗降操作中に電動ウインチが停止した
- 金属を含有するウインド フィルムや、その他の金属物（ダイハツ純正品以外のアンテナなど）を貼り付けると、受信機への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動範囲が短くなるおそれがあります。
- ワイヤレス リモコンは、持ち運びできるので紛失しないように、ご注意ください。
- ワイヤレス リモコンを紛失し、新たにお買い求めの場合は、最寄りのダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

電池について

- 電池寿命は約 1 年間です。（1 回の操作時間を 30 秒、1 日の操作回数を 20 回で計算した場合）電池寿命は実際の使用状況によって変わります。
- ワイヤレス リモコンを操作しても電動ウインチが作動しない場合や、著しく作動距離が短くなった場合、または動作表示ランプが暗くなったり、点灯・点滅しなくなった場合は電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

  （ワイヤレス リモコンの電池交換→ 72 ページ）
- 電池の交換をしても電動ウインチが作動しない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検してください。

  （ヒューズの点検と交換→ 73 ページ ）

ワイヤレス リモコンの交換について

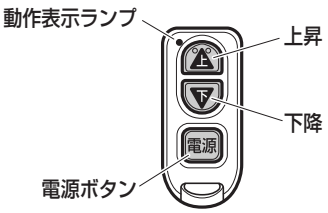
- ワイヤレス リモコンを交換するときは、IDコードを登録する必要がありますので、最寄りのダイハツ サービス工場にご相談ください。

航空機に乗るときは

- 航空機にワイヤレス リモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレス リモコンのボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

▼ 操作方法

1. ワイヤレス リモコンの電源ボタンを押し、上昇、または下降ボタンを押します。



アドバイス

- ワイヤレス リモコンは電池の消耗を防ぐため、一定時間操作が行われないと、自動的に電源が切れます。続けて操作するときは、もう一度、電源ボタンを押してから操作してください。
- ワイヤレス リモコンの電源を入れると、動作表示ランプが赤色に点灯します。
  ワイヤレス リモコンで電動ウインチを操作しているときは、動作表示ランプが緑色に点滅します。

2. 上昇、下降ボタンを押し続ければ作動し、離せば停止します。

■ ワイヤレス リモコンの電池が消耗したときは

車いすの乗降途中に万一、電池の消耗などでワイヤレス リモコンによるウインチ操作ができなくなった場合は、緊急用ウインチ スイッチによる車いすの乗降をしてください。

（緊急用ウインチ スイッチによる車いすの乗降→ 74 ページ）

車いすでの乗降

車いすでの乗降

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 車両への車いす乗降操作は必ず介添えの方が行ってください。介添えの方以外での操作は、車いすの細かい状況がわからず、脱輪・転倒・手足の干渉等のおそれがあり危険です。
- 車いすを乗車させたときは、ウインチ ベルトを外して走行しないでください。走行中に車いすが動き、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすはウインチ ベルトと車いす固定ベルトで確実に固定してください。確実に固定されていないと、車いすが外れ、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすを乗車させたときは、必ず車いすのブレーキをかけ、車いすを固定してください。

電動ウインチの耐荷重について

- 電動ウインチの耐荷重は 120kgです。電動ウインチで車いす以外の物を引き上げたり、耐荷重を超える使用は、電動ウインチの故障やウインチ ベルト破損につながったり、思わぬ事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- 車いすで乗降するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れて、バック ドアを全開にしてください。

乗車できる車いすについて

⚠警告

- タント スローパーに適した車いすをご使用ください。不適切な車いすで乗車された場合、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けたりするおそれがあります。

（乗車できる車いす→ 3 ページ）

車いすの乗降および固定

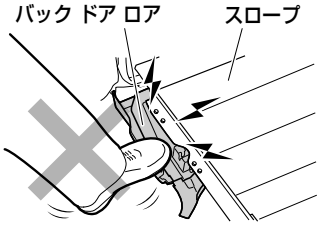
▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 車両への乗降は、必ずウインチ操作で乗降してください。手足での押し上げはスロープの傾斜により、車いすの転倒のおそれがあり危険です。
  やむを得ずワイヤレス リモコンの電池が消耗したときなどの緊急時に乗降するときは十分に注意して、必ず介添えの方が乗降させてください。
  （ワイヤレス リモコンで電動ウインチが作動しない場合→ 74 ページ）
- ウインチ操作時は、ウインチ ベルトやウインチ ベルト巻取り部に触れたり、物を置かないでください。指や手足、物を挟んでけがをしたり、電動ウインチが破損するおそれがあります。
- 電動車いすの自走での乗降は絶対に行わないでください。
- 車いす乗降操作時以外は、スローパー メイン スイッチを必ず“OFF”にしてください。“ON”のままだと、誤ってウインチ ベルト フリー スイッチが押された場合に、不意に車いすの固定が解除されるおそれがあり危険です。
- 電動ウインチで車いす乗降中にウインチ ベルト フリー スイッチを押したり、ウインチ ベルトのロックが解除されている状態で、手足での押し上げ乗降をしたりしないでください。
  車いすが車内またはスロープの途中で急に下がって転倒したり、介添えの方が支えきれず思わぬ事故につながったり、重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。

⚠注意

- 車いすで乗降する前に、車いす乗車スペースに乗降のさまたげになる物がないかを確認し、必ず収納してから乗降操作をしてください。
- 車いすを乗降するときは、頭上に注意してください。
- 階段や段差などを利用したり、スロープの接地が不完全な状態で車いすをスロープに乗せないでください。スロープから落ちてけがをしたり、スロープが破損するおそれがあります。
- スロープに対し、バック ドア ロアの幅が広くなっています。車いすを乗降するときは、バック ドア ロアのスロープからはみ出した部分を、不用意に踏まないように注意してください。バック ドア ロアを破損するおそれがあります。



- 介添えの方は、車いす乗車の方の「頭部や手足の位置」や「車輪の位置」・「方向」に注意して、スロープと車いすの中央付近が合うように車いすを乗車してください。

車いすでの乗降

⚠注意

- エンジンを停止させた状態で、電動ウインチを長時間作動させないでください。バッテリーあがりの原因となります。
  バッテリーがあがると、電動ウインチが作動しませんのでバッテリー交換、または最寄りのダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 電動ウインチで車いすの乗降を 3 回以上連続で行わないでください。電動ウインチに負荷がかかり故障の原因となります。
- 車いすの乗降操作中にウインチ ベルトが絡まるなどの不具合によって、電動ウインチが動かなくなったときは乗降操作を続けないでください。電動ウインチが破損するおそれがあります。
  動かなくなったときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 介添えの方が車いすから離れるときは、必ず車いすにブレーキがかかっていること確認してください。車いすが自重で後退するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

電動ウインチの安全機能について

- 電動ウインチで車いすの乗降操作中、障害物に当たるなどして作動がさまたげられると警告ブザー（「ピッピッピッ」という音）が鳴り、電動ウインチは停止します。この場合、乗員の手足などが車両に当たっていないことを確認し、障害物を取り除くなどしてください。
- 電動ウインチの連続使用や耐荷重（120kg）を超えた乗降をさせるなど、負荷をかけ過ぎると警告ブザー（「ピッピッピッ」という音）が鳴り、電動ウインチが作動しなくなることがあります。この場合、約 10 分以上時間をあけてからウインチ操作をしてください。

■ 車いすを乗車させる前に

⚠警告

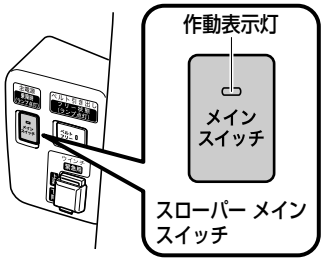
- 車両への車いす乗降操作は必ず介添えの方が行ってください。車いすの乗降とワイヤレス リモコン操作を別々の方が行うと、車いすの細かい状況がわからず、脱輪・転倒・手足の干渉等のおそれがあり危険です。

⚠注意

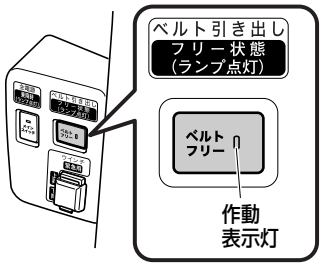
- 車いすで乗降するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、シフト レバーをPレンジに入れて、バック ドアを全開にしてください。

▼ 操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをPレンジに入れます。
2. スロープを設置します。
   （スロープの設置方法→ 42 ページ ）
3. スローパー メイン スイッチを押して“ON”（作動表示灯は点灯）にします。
   （スローパー メイン スイッチ → 46 ページ）



4. ウインチ ベルト フリー スイッチを作動表示灯が点灯するまで押します。

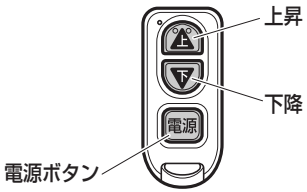


アドバイス

- ウインチ ベルト フリー スイッチを“ON”にして、ウインチ ベルトのロックを解除する待機状態のままで約 20 秒経過すると作動表示灯が消灯し、“OFF”になります。

車いすでの乗降

5. ウインチ ベルトのロックを解除します。
   - ワイヤレス リモコンの電源を入れ、上昇ボタンを押すとブザーが鳴ります。



   - ブザーはロックが解除されている間、鳴り続けます。

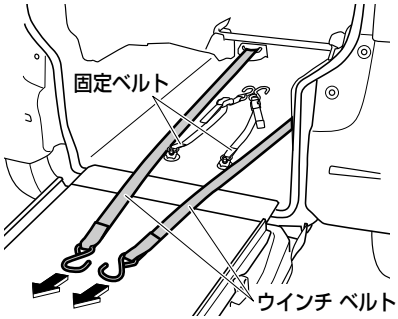
⚠注意

- ウインチ ベルトのロックを解除していないときにワイヤレス リモコンの上昇ボタンを押し続けないでください。
  車いす固定ベルト（左右）のフックにウインチ ベルトのフックがかかっているときは、電動ウインチ巻き取り作動によって負荷がかかり、故障の原因となります。

アドバイス

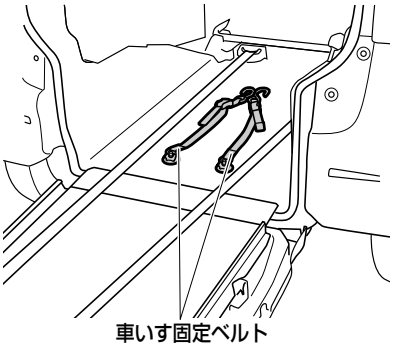
- ワイヤレス リモコンの下降ボタンでも、ウインチ ベルトのロックを解除できます。
- ウインチ ベルトのロックが解除されている状態で約 2 分経過すると、ブザーが止まりウインチ ベルトがロックされます。

6. ウインチ ベルトのフックをしっかり手で持って車いす固定ベルト（左右）のフックから取り外し、ウインチ ベルトを引き出します。



⚠注意

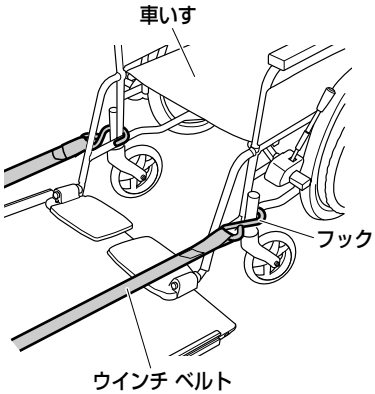
- ウインチ ベルトのフックを手でしっかりと支えて外してください。手を離すとウインチ ベルトの巻き取り機能により勢いよく戻ってけがをしたり、スロープの損傷やウインチ ベルトのほつれなどの原因になります。
- 車いす固定ベルトは、乗降操作のさまたげにならないように、フロア前側中央に置いてください。
  車いす乗降時に介添えの方が転倒してけがをしたり、ベルトが損傷したりする原因になります。



アドバイス

- ウインチ ベルトが引き出せない場合は、いったんウインチ ベルトを巻き戻すと引き出すことができます。
  それでも引き出せない場合は、一度ウインチ ベルトを強く引いてからゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

7. 車いす前側フレームの左右対称位置にウインチ ベルトがねじれないように、フックを引っかけます。



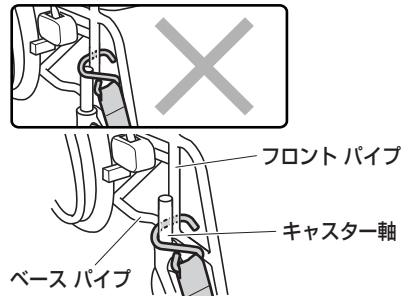
⚠注意

- ウインチ ベルトのフックは、車いすフレームのフロント パイプとベースパイプの交差部に確実に取り付けてください。
- ウインチ ベルトが車いすの足置きなどに引っかからないように取り付けてください。

⚠注意

キャスター軸とフレームが別体の車いすの場合

- ウインチ ベルトのフックを取り付けるとき、下記のことをお守りください。フックを正しく取り付けないと、フックが外れ、車いすの転倒・脱輪などにつながり大変危険です。
  - フロント パイプとベース パイプの交差部に、フロント パイプとキャスター軸の両軸が引っかかるようにフックを取り付けてください。
  - キャスター軸上部に取り付けないでください。
  - フロント パイプのみに取り付けないでください。

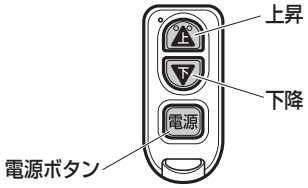


車いすでの乗降

■ 乗車

▼ 操作方法

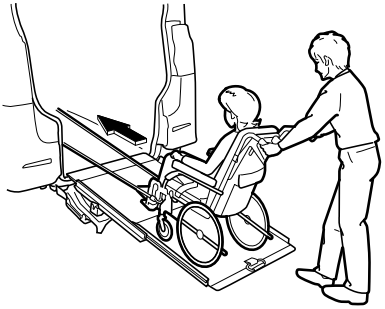
1. 車いすのブレーキを解除します。
2. ウインチ ベルトをロックします。
   - ワイヤレス リモコンの電源を入れ、上昇ボタンを押します。



アドバイス

- ウインチ ベルトがロックするとブザーは止まり、ウインチ ベルト フリースイッチの作動表示灯は消灯します。

3. 介添えの方がワイヤレス リモコンの上昇ボタンを押し続けながら、車いすをしっかりと支えて乗車します。

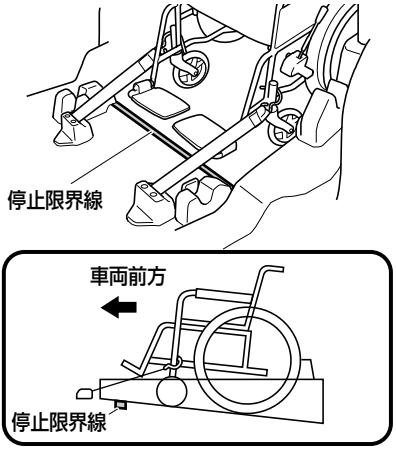


アドバイス

車いすがまっすぐ進まないときは

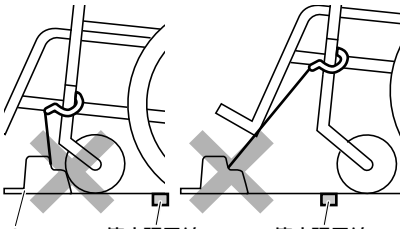
- ワイヤレス リモコンの上昇ボタンを押したまま、車いすを押す力を左右で加減して、車いすの進行方向とウインチ ベルトの長さを左右均等に補正してください。
  ウインチ ベルトの長さが左右均等になると、車いすはまっすぐ進みます。

4. 車いす全体が乗車スペースに入ったら、フロアにある停止限界線を目安にしてウインチ ベルトの巻き取りを停止します。
   - 車いすの前輪が停止限界線より十分手前の位置で、ワイヤレス リモコンから指を離します。

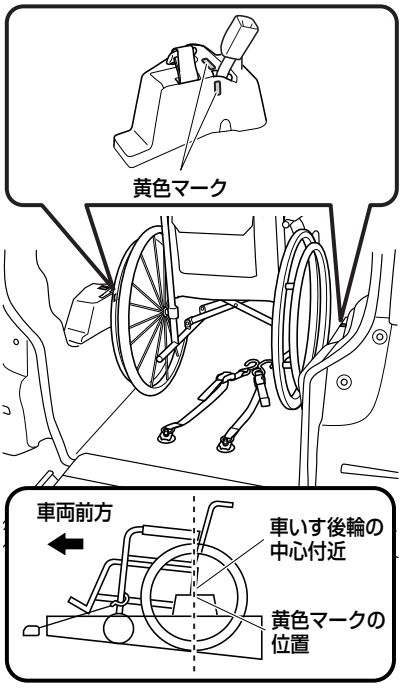


⚠注意

- 車いすを乗車するときは、車いす乗車の方のつま先が車両などに接触しないように注意してください。
- 下図のように車いす前輪とウインチが接触したり、停止限界線を越えていなくてもウインチ ベルトが上方向に引っ張られた状態では、車いすがしっかり固定できず危険です。



5. 車いす乗車者用 3 点式シート ベルトのカバーにある黄色マークを目安にして車いす乗車の位置を確認します。
   - 黄色マークが車いす後輪の中心付近で合っていることを確認します。



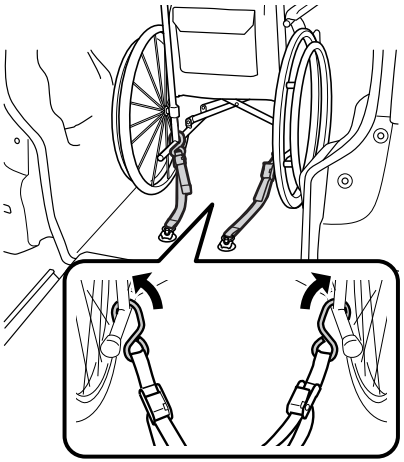
車いすでの乗降

■ 車いすの固定

車いすの後部に固定ベルトをかけて固定します。

▼ 操作方法

1. 車いす固定ベルト（左右）のフックを車いすにかけます。

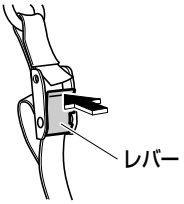


⚠警告

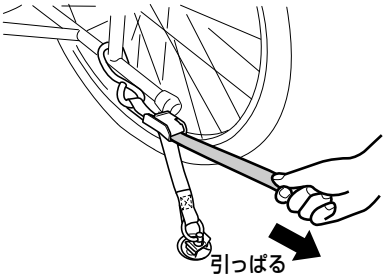
- 車いす固定ベルト（左右）のフックは、車いすフレームのリヤ パイプとベース パイプの交差部に確実に取り付けてください。固定ベルト（左右）のフックが外れると車いすの転倒・脱輪などにつながり大変危険です。

アドバイス

- 車いす固定ベルト（左右）のフックが車いすに届かないときは、固定ベルトのレバーを押し、ベルトを伸ばします。

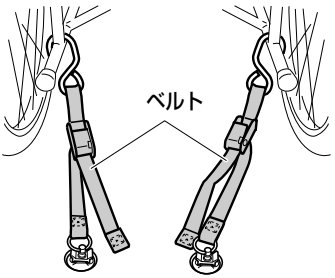


2. 車いす固定ベルト（左右）をたるみがなくなるまで手で引っ張ります。



アドバイス

- 下図のように左右のベルトがほぼ同じ長さになるように調整してください。



- 車いす固定ベルト（左右）のフックを軽くゆさぶり、ベルトにたるみがないことを確認します。

3. ウインチ ベルトを巻き上げ、車いすを固定します。
   - ワイヤレス リモコンの電源を入れ、上昇ボタンをブザー（「ピッピッピッ」という音）が鳴るまで押し続けます。
     車いすが車両前方に動き、固定されます。

⚠注意

- **ブザーが鳴ったとき、車いすが車両前方へ動いたことを必ず確認してください。**
  ブザーが鳴っても車いすが動かないときは、確実に固定されていません。車いすを少し後退させてから固定ベルトのたるみを取り、車いすの固定をやり直してください。

4. 車いすのハンドルを握り、前後左右に揺さぶり、車いすが確実に固定されていることを確認します。

アドバイス

- **固定が十分でない場合は、もう一度ワイヤレス リモコンの上昇ボタンを押して、しっかり固定したことを確認してください。**

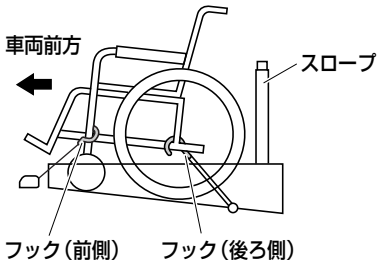
5. 車いすのブレーキをかけます。

⚠警告

- **車いす固定後は、必ず車いすのブレーキをかけてください。車いすが動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

- **車いすは、収納時のスロープに干渉しない位置にあることを確認してください。**



6. スローパー メイン スイッチを押して“OFF”（作動表示灯は消灯）にします。
7. スロープを格納し、バック ドアを閉めます。
   （スロープの格納方法→ 44 ページ ）
8. シート ベルトを着用させます。
   （車いす乗車者用 3 点式シート ベルト → 21 ページ）

車いすでの乗降

■ 車いすを降車させる前に

⚠警告

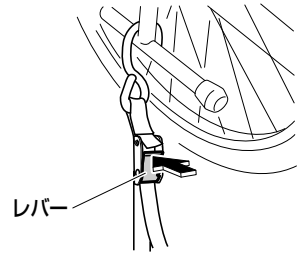
- **車両への車いす乗降操作は必ず介添えの方が行ってください。車いすの乗降とワイヤレス リモコン操作を別々の方が行うと、車いすの細かい状況がわからず、脱輪・転倒・手足の干渉等のおそれがあり危険です。**

⚠注意

- **車いすで乗降するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れて、バック ドアを全開にしてください。**

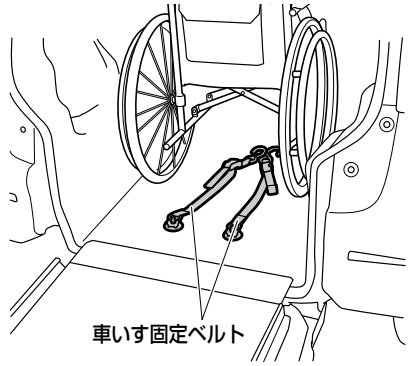
▼ 操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れます。
2. 車いすにブレーキがかかっていることを確認します。
3. シート ベルトを外します。
   （車いす乗車者用 3 点式シート ベルト → 21 ページ）
4. スロープを設置します。
   （スロープの設置方法→ 42 ページ ）
5. 車いす後ろ側の固定を解除します。
   - 車いす固定ベルト（左右）のレバーを押してベルトをゆるめ、取り外します。



⚠注意

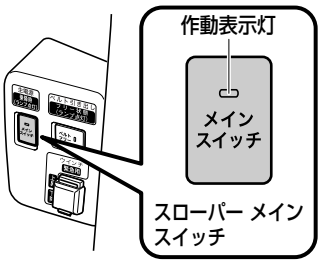
- **車いす固定ベルトは、乗降操作のさまたげにならないように、フロア前側中央に置いてください。**
  車いす乗降時に介添えの方が転倒してけがをしたり、ベルトが損傷する原因になります。



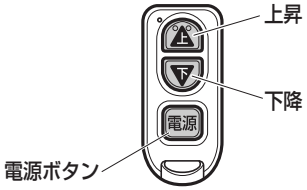
■ 降車

1. スローパー メイン スイッチを押して“ON”（作動表示灯は点灯）にします。

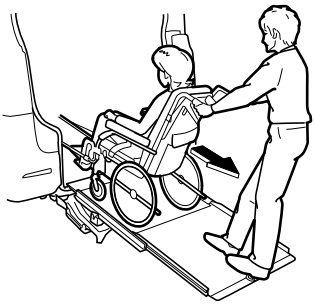
（スローパー メイン スイッチ → 46 ページ）



2. 車いすのブレーキを解除します。
3. ワイヤレス リモコンの電源を入れます。



4. 介添えの方がワイヤレス リモコンの下降ボタンを押し続けながら、車いすをしっかりと支えて降車し、車外に降ろします。



アドバイス

車いすがまっすぐ進まないときは

- **降車操作をいったん停止し、進行方向を調整するために、上昇方向に操作します。**
  ワイヤレス リモコンの上昇ボタンを押したまま、車いすを押す力を左右で加減して、車いすの進行方向とウインチ ベルトの長さを左右均等に補正してください。
  ウインチ ベルトの長さが左右均等になると、車いすはまっすぐ進みます。

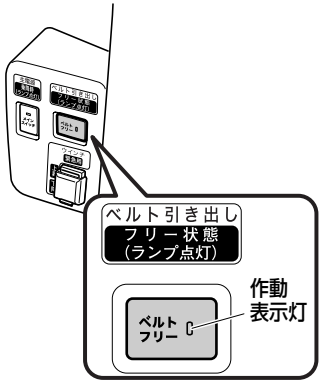
5. 車いすのブレーキをかけます。

車いすでの乗降

■ ウインチ ベルトの取り外しかた

▼ 操作方法

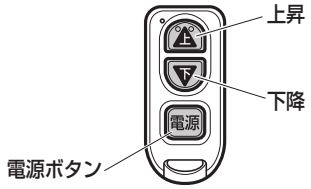
1. 車いすにブレーキがかかっていることを確認します。
2. ウインチ ベルト フリー スイッチを作動表示灯が点灯するまで押します。



アドバイス

- ウインチ ベルト フリー スイッチを“ON”にして、ウインチ ベルトのロックを解除する待機状態のままで約 20 秒経過すると作動表示灯が消灯し、“OFF”になります。

3. ウインチ ベルトのロックを解除します。
   - ワイヤレス リモコンの電源を入れ、下降ボタンを押すとブザーが鳴ります。



   - ブザーはロックが解除されている間、鳴り続けます。

アドバイス

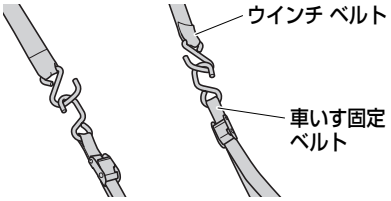
- ウインチ ベルトのロックが解除されている状態で約 2 分経過すると、ブザーが止まりウインチ ベルトがロックされます。

4. ウインチ ベルトを引き出して、フックを片側ずつ車いすから取り外します。

アドバイス

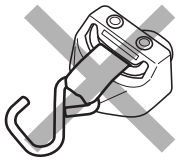
- ウインチ ベルトがいっぱいまで引き出されフックが外れないときは、車いすのブレーキを解除して、前側へ移動させてください。

5. ウインチ ベルトを手で持ちながら、ねじれないように巻き取らせ、車いす固定ベルト（左右）のフックにかけます。



⚠注意

- ウインチ ベルトは必ず手で持って巻き取ってください。手を離すとウインチ ベルトの巻き取り機能により勢いよく戻ってけがをしたり、スロープの損傷やウインチ ベルトのほつれなどの原因になります。
- ウインチ ベルトを使用しないときは、必ず車いす固定ベルト（左右）のフックにかけてください。ウインチ ベルトをいっぱいまで巻き取ると、電動ウインチ装置内でウインチ ベルトが絡むなどして故障の原因となります。
  また、車いす固定ベルト（左右）のフックにかかっている状態で、それ以上ウインチ ベルトを巻き取らないでください。



アドバイス

ウインチ ベルトが引き出せないときは

- ウインチ ベルトがいっぱいまで巻き取られ、電動ウインチ装置から引き出せなくなる場合があります。
  そのときは、ウインチ ベルト フリースイッチを押し、ワイヤレス リモコンの下降ボタンを押してウインチ ベルトのロックを解除します。
  解除状態（ブザー吹鳴中）で、一度ウインチ ベルトを強く引いてからゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
  それでも引き出せない場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

6. ワイヤレス リモコンの上昇ボタンを押してウインチ ベルトをロックします。

アドバイス

- ウインチ ベルトがロックするとブザーは止まり、ウインチ ベルト フリースイッチの作動表示灯は消灯します。

7. スローパー メイン スイッチを押して“OFF”（作動表示灯は消灯）にします。
8. スロープを格納し、バック ドアを閉めます。
   （スロープの格納方法→ 44 ページ ）

車いすでの乗降

車いすの折りたたみ搭載

車いすを折りたたんで積み込むことができます。
車いすは、専用の車いす固縛ベルトで固定します。車いす固縛ベルトは、グローブ ボックスにあります。

車いす搭載方法

▼ 操作する前に

⚠注意

- 各部の操作および車いすの出し入れはけがなどをしないよう慎重に行ってください。
- 車いす固縛ベルトは、折りたたんだ車いすの補助的な固定ベルトです。使用中にゆるみや外れがないことを確認してください。

アドバイス

- 車いすの形状またはタイヤ サイズによっては、折りたたみ搭載ができないことがあります。確実に固定されない場合は、折りたたみ搭載をしないでください。

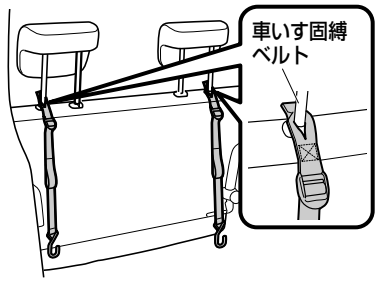
▼ 操作手順

1. グローブ ボックスから車いす固縛ベルトを取り出します。
2. スロープを設置します。
   （スロープの設置方法→ 42 ページ）
3. リヤ シートの背もたれをおこします。
   （背もたれを倒すとき→ 13 ページ）

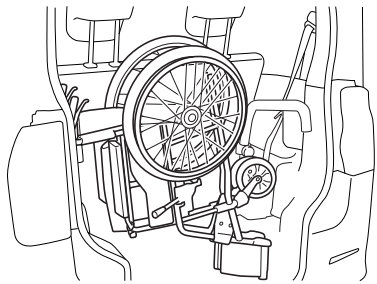
⚠注意

- リヤ シートの背もたれが確実に固定されていることを確認してください。

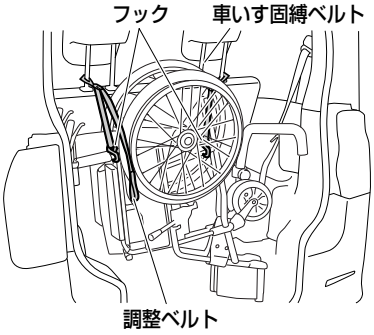
4. リヤ シートのヘッド レストを取り外し、車いす固縛ベルトを取り付けます。
   （ヘッド レストの調整 → 13 ページ）



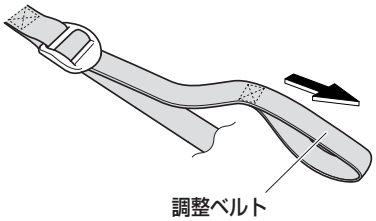
5. 車いすを折りたたみ、ラゲージ ルームに乗せます。



6. 車いす固縛ベルトのフックを車いすのフレームに引っかけます。



7. 調整ベルトを引っ張り、車いすを確実に固定します。



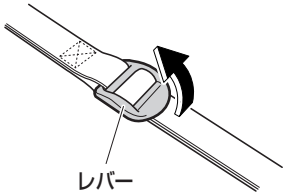
⚠注意

- **車いすをリヤ シートの背面に押さえつけるようにして、確実に固定してください。固定されていないと、走行中に車いすがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

8. スロープを格納します。
（スロープの格納方法→ 44 ページ）

▼ 車いすを取り出すときは

1. スロープを設置します。
（スロープの設置方法→ 42 ページ）
2. 車いす固縛ベルトのレバーを引き上げてベルトをゆるめます。



3. 収納時の逆の手順で車いすを取り出します。

MEMO

いざというときに

**車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。**

■ 工具類

収納場所 ----------70
ガレージ ジャッキ（市販品）を
使用する場合 ----------71

■ いざというときの処置

ワイヤレス リモコンの電池交換 ------72
ヒューズの点検と交換----------73
ワイヤレス リモコンで
電動ウインチが作動しない場合 ----74

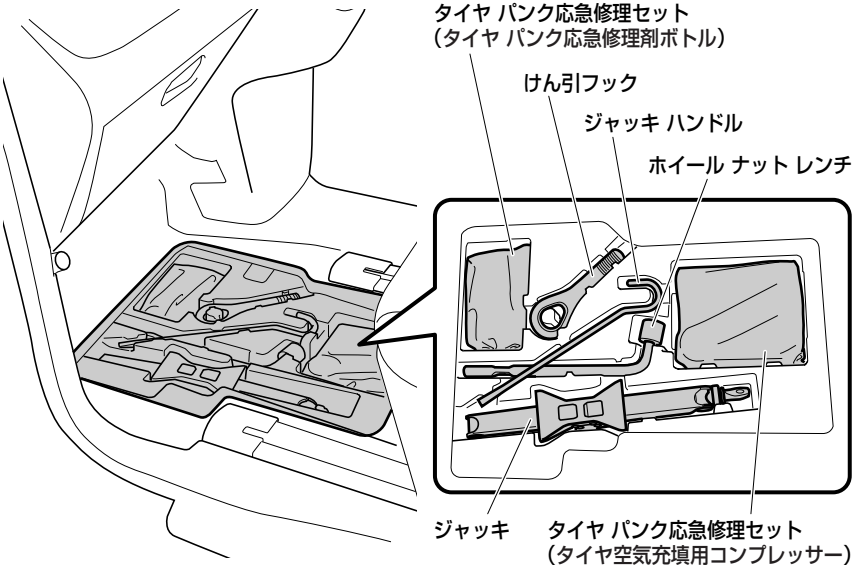
工具類

収納場所

助手席フロア

⚠注意

- ジャッキ、工具、タイヤ パンク応急修理セットは所定の位置に収納してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに体に当たるなど、大変危険です。

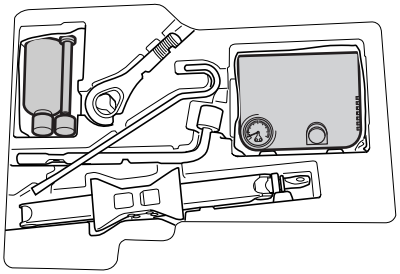


■ タイヤ パンク応急修理セット

使用するときは、袋から出してください。

⚠注意

- 収納するときは、下図のように収納してください。誤った方向で収納すると、助手席フロアに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。

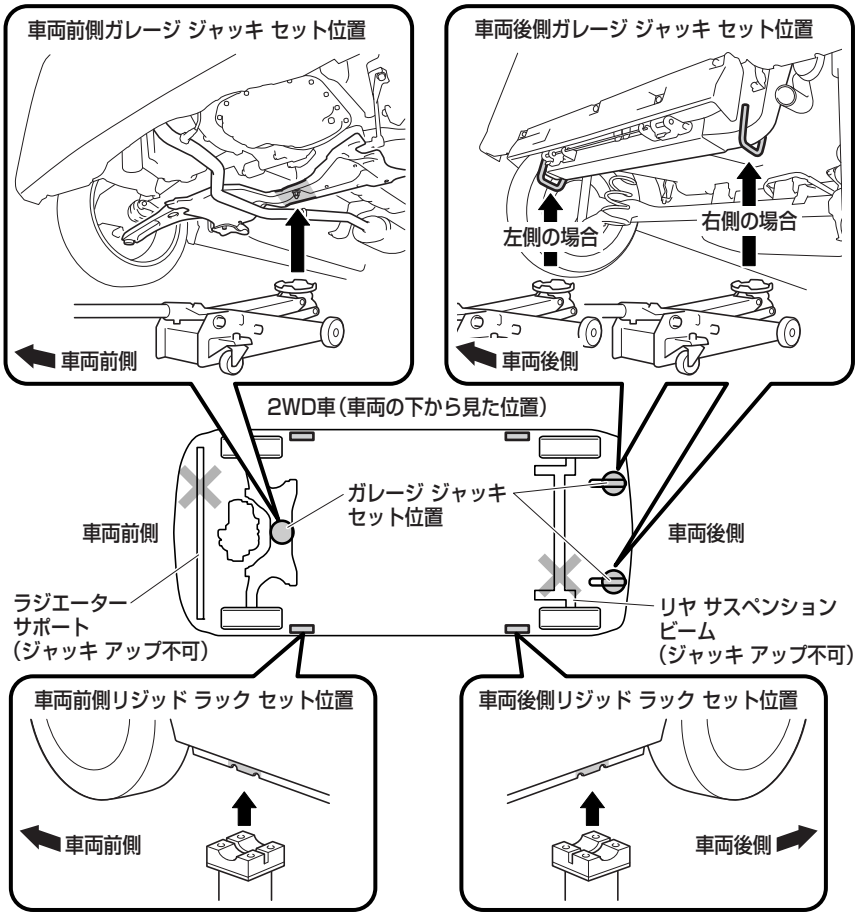


ガレージ ジャッキ（市販品）を使用する場合

ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック（市販品）をリジッド ラック セット位置にセットしてください。

⚠注意

- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしてないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。



いざというときの処置

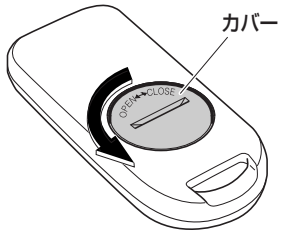
ワイヤレス リモコンの電池交換

リモコン操作ができなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。
電池は、お客様自身で交換できます。

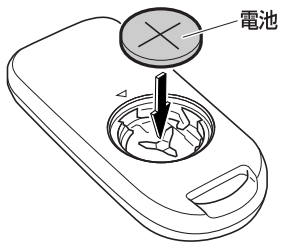
▼ 使用電池について
使用電池は「CR2032 (3V)」です。

▼ 交換方法

1. コインなどを利用して、本体裏面のカバーをはずします。



2. 電池を取り出し、新しい電池と交換します。



⚠注意

- 取り出した電池はお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

アドバイス

- 電池の交換をしても電動ウインチが動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。
（ヒューズの点検と交換→ 73 ページ ）

ヒューズの点検と交換

ヒューズの位置

車いす乗降用の電動ウインチが、ワイヤレス リモコンの電池交換をしても動かない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはダイハツ サービス工場にご相談ください。

（ワイヤレス リモコンの電池交換→ 72 ページ）

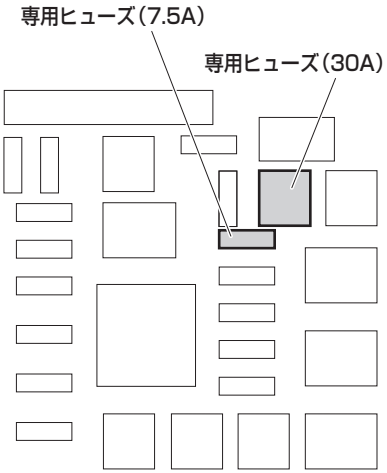
⚠注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときや、電動ウインチが動かないときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

■ エンジン ルーム ヒューズ ボックス

エンジン ルーム内にあります。
ヒューズ ボックスのカバーに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

▼ タント スローパー専用ヒューズ



ワイヤレス リモコンで電動ウインチが作動しない場合

ワイヤレス リモコンによるウインチ操作ができないときは、リモコンの電池消耗、ヒューズ切れ、またはバッテリーあがりが考えられます。

（ワイヤレス リモコンの電池交換 → 72 ページ）
（ヒューズの点検と交換→ 73 ページ）

▼ リモコンでウインチ操作ができなくなったときは

緊急用ウインチ スイッチで車いすを乗降してください。

（緊急用ウインチ スイッチによる車いすの乗降→ 74 ページ）

▼ バッテリー電圧低下により電動ウインチが作動しないときは

エンジンを始動してウインチ操作を行ってください。

緊急用ウインチ スイッチによる車いすの乗降

ワイヤレス リモコンの電池消耗などで、リモコンが使用できないような緊急時は緊急用ウインチ スイッチで車いすの乗降ができます。

▼ 緊急用ウインチ スイッチの作動条件

- スローパー メイン スイッチが“ON”のとき

（スローパー メイン スイッチ → 46 ページ）

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- スイッチ操作は介添えの方とは別で、補助の方が行ってください。介添えの方が一人で操作し、車いすから手を離すと脱輪・転倒・手足の干渉等のおそれがあり危険です。
- 電動ウインチで車いす乗降中にウインチ ベルト フリー スイッチを押したり、ウインチ ベルトのロックが解除されている状態で、手足での押し上げ乗降をしたりしないでください。
  車いすが車内またはスロープの途中で急に下がって転倒したり、介添えの方が支えきれず思わぬ事故につながったり、重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。

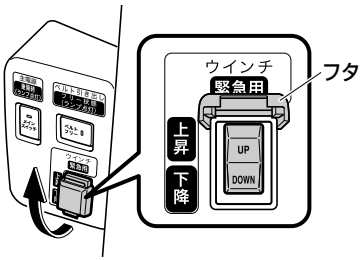
▼ 操作方法

乗降操作は、ワイヤレス リモコンの代わりに緊急用ウインチ スイッチを使用します。

“車いすでの乗降”をご参照ください。

（車いすでの乗降→ 52 ページ）

1. フタを開きます。



2. スイッチの上昇（UP）側、または下降（DOWN）側を押している間は作動し、離すと停止します。

電動ウインチの故障などでウインチが作動しない場合

■乗車途中にウインチ操作ができなくなったとき

介添えの方が車いすをそのまま押し上げて乗車させてください。

アドバイス

- ウインチ操作ができなくなっても、ウインチ ベルトをロックしている間は後退防止機能がはたらいて、車いすの後退を防止します。

■車いす乗車者のみ車外に降ろすときは

車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、以下の方法で車いす乗車者のみ車外へ降ろしてください。

車いす乗車者を降ろしたあとは、必ずダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

- 平坦地で車の通行が少ない、安全な場所を選んで車外に降ろしてください。坂道での降車は大変危険ですので、絶対に行わないでください。

▼ 降車方法

1. 左側ドア（助手席側ドアとスライドドア）を全開にします。
2. シート ベルトを外し、車いす乗車者を降ろします。

MEMO

タント スローパーのお手入れ

タント スローパー特有のお手入れの方法について説明しています。

■ タント スローパーのお手入れ

タント スローパーのお手入れ-------78

タント スローパーのお手入れ

タント スローパーのお手入れ

タント スローパーのお手入れ

▼ お手入れをする前に

駐車ブレーキを確実にかけ、シフト レバーを㋫レンジに入れてください。また、安全のため必ずエンジンを停止してください。

スロープ

スロープの表面や接地面、スライド部に泥や小石、砂などが付着しているときは、ブラシなどを使用して取り除いてください。汚れなどは水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ってください。異物がスライド部分につまると、スロープが滑らかに引き出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

車いす乗車スペース

車いす乗車スペースがほこりや泥などで汚れたときは、清掃をしてください。

⚠注意

- 車いす乗車スペースは、水洗いをしないでください。
  また、飲み物をこぼしたり、雨水などがかからないよう注意してください。
  フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  万一、飲み物、雨水などがかかった場合は、すみやかにダイハツ サービス工場にご相談ください。

■ 車いす固定ベルトの取り外し

車いす固定ベルトを取り外すことで、より車いす乗車スペースを清掃しやすくなります。

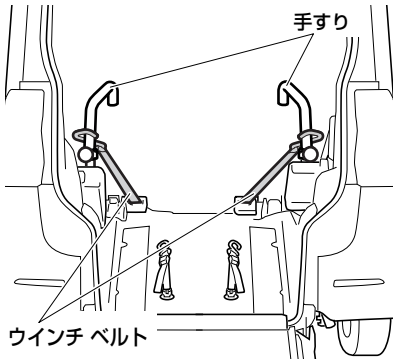
⚠警告

- 車いす固定ベルトを取り外した状態で、車いすの乗車は絶対にしないでください。取り外したままでは、車いすが固定できず大変危険です。

▼ 車いす固定ベルトを取り外す前に

⚠注意

- 固定ベルトを取り外すときは、ウインチ ベルトがねじれないよう、手すりにフック（左右）を確実に引っかけてください。ウインチ ベルトをいっぱいまで巻き取ると、電動ウインチ装置内でウインチ ベルトが絡むなどして故障の原因となります。



アドバイス

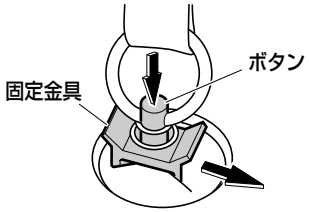
ウインチ ベルトの引き出しかたについて

- “車いすを乗車させる前に”の手順 1～6 をご参照ください。
  （車いすを乗車させる前に→ 55 ページ）

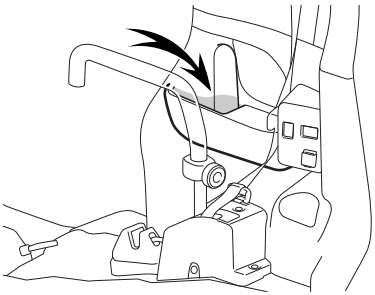
タント スローパーのお手入れ

▼ 車いす固定ベルトの取り外しかた

1. ボタンを押さえながら固定金具を引き上げ、スライドさせて取り外します。



2. 取り外した車いす固定ベルトを後席クォーター ポケットに収納します。



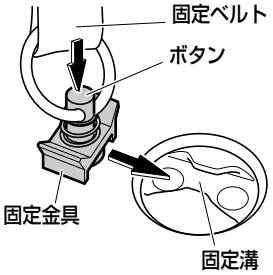
▼ 車いす固定ベルトの取り付けかた

⚠注意

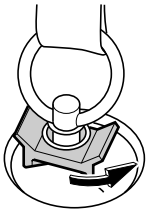
車いす固定ベルトを取り付ける前に

- **固定溝や固定金具に泥や小石、砂などが付着していないことを確認してから取り付けてください。**

1. 車いす固定ベルトを後席クォーターポケットから取り出します。
2. ボタンを押さえながら固定金具を引き上げ、スライドさせて取り付けます。



3. 固定金具を「カチッ」という音がするまで回し、確実に固定されていることを確認します。



MEMO

定期点検整備

定期点検整備

定期点検整備

車の点検・お手入れ

- 故障を減らして長く大切に使うために定期点検整備をお願いします。
- 点検結果を記録する際には、記録簿をコピーしてご使用ください。

点検整備項目		点検時期			備考
		日常使用者点検	自家用車 12か月ごと	自家用車 24か月ごと	
スロープ部	・各部取り付け部のゆるみ、損傷	○	○		
	・スライド部の損傷	○	○		スムーズさ
電動ウインチ部	・作動具合（異音、スムーズな作動）	○	○		
	・ベルトの汚れ、ホコリ等の付着によるベルトの巻き取り不良	○	○		清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまで使用しないこと（ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は使用不可）
	・ベルトの傷、ほつれ	○	○		ほつれが始まったら交換
	・フックの損傷、腐食	○	○		変形、腐食があれば交換
車いす固定ベルト部	・各部取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷	○	○		
	・ベルトの傷、ほつれ	○	○		ほつれが始まったら交換
	・フックの損傷、腐食	○	○		変形、腐食があれば交換
車いす用シートベルト部	・ベルトの傷、ほつれ	○	○		ほつれが始まったら交換

定期点検整備記録簿

分解整備記録簿

該当なし	/	異常なし	✓	交換	×	締付	T	清掃	C
調整	A	修理	△	分解	○	給油	L	省略	P

点検の結果および整備の概要

■タント スローパーの点検

《スロープ部》

- □ ・各部取り付け部のゆるみ、損傷
- □ ・スライド部の損傷

《電動ウインチ部》

- □ ・作動具合（異音、スムーズな作動）
- □ ・ベルトの汚れ、ホコリ等の付着によるベルトの巻き取り不良
- □ ・ベルトの傷、ほつれ
- □ ・フックの損傷、腐食

《車いす固定ベルト部》

- □ ・各部取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷
- □ ・ベルトの傷、ほつれ
- □ ・フックの損傷、腐食

《車いす用シート ベルト部》

- □ ・ベルトの傷、ほつれ

■その他必要となった点検整備の内容および主な交換部品

型　式	
架装物名	タント スローパー
車体 No.	
お客様の業種・積載物	架装メーカー名

依頼者の氏名または名称及び住所

氏名または名称

住所

メンテナンスに関するアドバイス

型　式	初年度登録または初年度検査年

自動車登録番号または車両番号(左記の無い車両にあっては、車台番号)

自動車分解整備事業者の氏名または名称および事業場の所在地

氏名または名称

事業場の所在地

認証または指定番号	点検の年月日
	年　月　日

点検時の総走行距離	整備を完了した年月日
km	年　月　日

整備主任者の氏名

MEMO

さくいん

イ

ISO FIX対応チャイルド シート固定
バー＆トップ テザー アンカー ------ 36

ウ

ウインチ ベルト フリー スイッチ------ 47

オ

お子さま専用シート ------ 26

カ

ガレージ ジャッキ（市販品）を使用
する場合 ------ 71

キ

緊急用ウインチ スイッチ ------ 48
緊急用ウインチ スイッチによる
車いすの乗降------ 74

ク

車いす------3
車いす固定ベルトの取り外し--------- 78
車いす乗車者のみ
車外に降ろすときは ------ 75
車いすでの乗降 ------ 52
車いす搭載方法 ------ 66
車いすの折りたたみ搭載------ 66
車いすの乗降および固定------ 53

ケ

けん引フック------ 70

コ

工具------70
固定バー------36

シ

シート ベルト
車いす乗車者用
３点式シート ベルト ------21
車載工具------70
ジャッキ------70
収納場所（工具類） ------70
乗車できる車いす------ 3
乗車できる車いすについて------52

ス

スイッチの名称------45
スローパーの取り扱い
車いすでの乗降 ------52
ワイヤレス リモコンで
電動ウインチが作動しない場合 -----74
スローパー メイン スイッチ ---------46
スロープ
スロープの格納方法 ------44
スロープの設置方法 ------42

タ

タイヤ パンク応急修理セット --------70
タント スローパー専用部品------ 2
タント スローパーのお手入れ --------78

チ

チャイルド シート---------- 26
チャイルド シート固定バー---------- 36
チャイルド シートの選びかた ------- 28
チャイルド シートの固定のしかた --- 33
チャイルド シートの種類 ---------- 27

ツ

ツール（工具） ---------- 70

テ

テザー アンカー ---------- 36
手すり---------- 38
　手すりの取り外し ---------- 40
　向きの変更 ---------- 38
点検 ---------- 82
電動ウインチ用ワイヤレス リモコン--- 49

ト

トップ テザー アンカー---------- 36

ハ

バック ドア---------- 41

ヒ

ヒューズの位置 ---------- 73
ヒューズの点検と交換 ---------- 73

ヘ

ヘッド レスト
　リヤ シート ---------- 13

ホ

ホイール ナット レンチ ----------70

リ

リモコン スイッチ
　ワイヤレス リモコンの電池交換-----72
リヤ シート---------- 12
　シートの格納---------- 14
　背もたれを倒すとき ---------- 13
　リヤ シートの脱着---------- 17

ワ

ワイヤレス リモコンで電動ウインチ
が作動しない場合----------74
ワイヤレス リモコンの電池交換-------72

I

ISO FIX対応チャイルド シート固定バー
&トップ テザー アンカー----------36

MEMO

ご相談、ご意見はご購入いただいた
販売会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先は別冊「メンテナンス ノート」の
「ダイハツ サービス網」をご覧ください。

お問い合わせには、あらかじめ下記の事項
について確認のうえ、ご連絡願います。

⑴車名および型式、登録番号
⑵ご購入年月日
⑶走行距離
⑷お客様のご住所、お名前、電話番号

ダイハツ工業株式会社　お客様相談室

フリー コール　フリーコール 0800-500-0182
受付時間　平日　9:00～19:00
　　土日祝 9:00～17:00
〒563-8651　大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（http://www.daihatsu.co.jp/privacy/index.htm）

●印刷＝2013年11月28日　●発行＝2013年12月5日＜非売品＞
●編集＝ダイハツ工業株式会社　サービス部
●発行＝ダイハツ工業株式会社

131205-1

01999-B2288

シートベルトを締めましょう

ダイハツ工業株式会社

車両の仕様などの変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください